「あったらいいな」をいちばんに。

ネオファースト生命

第一生命グループ

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2014 年冬のボーナスと家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 29 弾～

2015 年 1 月

ネオファースト生命保険株式会社

※当社は、2014 年 11 月 25 日に、社名を「損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社」から「ネオファースト生命保険株式会社」に変更いたしました。

目　次

■調査概要 ____ 1

■調査結果 ____ 5

Ⅰ　この冬のボーナス

１．この冬のボーナスの手取り額 6
２．この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較 8
３．ボーナスの今後の見通し 9
４．今回のボーナスの主な使い道 11
５．ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額 15
６．臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額 18

Ⅱ　わが家の家計

１．現状で、家計は苦しいと感じるか 21
２．今後の家計の見通し 23
３．「金融資産の残高」の増減 25

Ⅲ　夫に内緒の資産

１．『夫に内緒の資産』の保有状況 28
２．『夫に内緒の資産』の保有額 30
３．『夫に内緒の資産』を持つ目的 32
４．『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか 34
５．『夫に内緒の資産』の増減 36
６．『夫に内緒の資産』の保有形態について 39
７．『夫に内緒の資産』の今後の見通し 42

Ⅳ　2014 年４月の消費税増税（８％）の影響

１．４月の消費税増税は家計や消費生活にどの程度影響があったか 45
２．消費税増税の後、家庭の消費行動にはどんな変化があったか 47
３．日頃よく利用している「節約食材」 48
４．「購入してみたい」と思う生活便利家電 50

調査概要

1. 調査の目的

ネオファースト生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002 年 3 月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

29 回目となる今回は、2014 年冬に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1)調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の 20 歳から 59 歳の主婦 500 人

＜サンプル配分＞

合計	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳
500	125	125	125	125

(2)調査方法　　インターネット調査

(3)調査時期　　平成 26 年 12 月 13 日（土）～12 月 16 日（火）

(4)調査項目

・この冬のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
・今後の増減見通し
・ボーナスの主な使い道
・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
・家計の現状と今後の家計の見通し
・世帯の金融資産の増減
・夫に内緒の資産保有について
・2014 年４月の消費税増税（８％）の家計への影響
・購入してみたい生活便利家電
・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝%）

F1. 年齢

（平均:39.5 歳）

サンプル数	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳
500	16	109	62	63	72	53	96	29
100.0	3.2	21.8	12.4	12.6	14.4	10.6	19.2	5.8

F2. 職業

サンプル数	正規有職	パート	専業主婦
500	104	138	258
100.0	20.8	27.6	51.6

F3. 夫の年代

サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳以上
500	85	142	138	135
100.0	17.0	28.4	27.6	27.0

F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
500	246	108	88	58
100.0	49.2	21.6	17.6	11.6

F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・不動産・サービス業
500	1	42	178	17	58	62	142
100.0	0.2	8.4	35.6	3.4	11.6	12.4	28.4

F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代同居（4世代同居を含む）	親夫婦と子夫婦・自分たち夫婦と親	その他
500	149	300	36	10	5
100.0	29.8	60.0	7.2	2.0	1.0

F7. 扶養中の子ども

サンプル数	いる	いない
500	302	198
100.0	60.4	39.6

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
500	216	18	104	149	13
100.0	43.2	3.6	20.8	29.8	2.6

F9. 現在住宅ローンがあるか

サンプル数	ある	ない
500	215	285
100.0	43.0	57.0

F10. 世帯年収（税込み）

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	58	154	129	73	86
100.0	11.6	30.8	25.8	14.6	17.2

F11. 居住地

サンプル数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
500	17	24	225	74	96	20	8	36
100.0	3.4	4.8	45.0	14.8	19.2	4.0	1.6	7.2

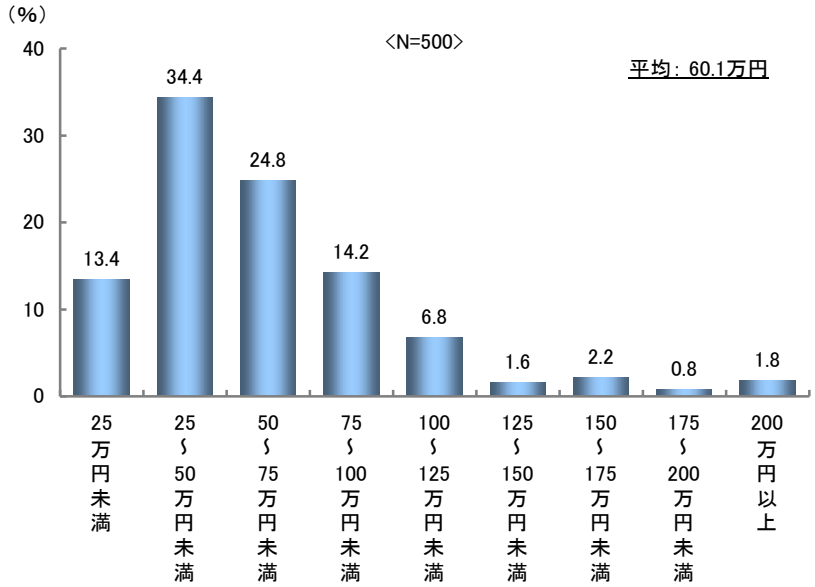
調査結果

Ⅰ　この冬のボーナス

１．この冬のボーナスの手取り額

この冬のボーナス平均受給額（手取り）は、平均「60.1 万円」。

図 1．この冬のボーナスの手取り額



		25万円未満	25～50万円未満	50～75万円未満	75～100万円未満	100～125万円未満	125～150万円未満	150～175万円未満	175～200万円未満	200万円以上	平均（万円）□
妻の年代	20 代 <n=125>	19.2	53.6	20.8	4.0	1.6	－	－	－	0.8	41.4
	30 代 <n=125>	16.0	35.2	25.6	13.6	5.6	2.4	0.8	－	0.8	53.4
	40 代 <n=125>	9.6	28.8	26.4	20.0	7.2	0.8	3.2	1.6	2.4	71.5
	50 代 <n=125>	8.8	20.0	26.4	19.2	12.8	3.2	4.8	1.6	3.2	74.2
夫の役職	役職なし <n=246>	19.1	48.8	20.7	8.5	2.0	－	0.4	－	0.4	43.1
	係長・主任クラス <n=108>	9.3	32.4	33.3	18.5	4.6	0.9	0.9	－	－	56.6
	課長クラス以上 <n=146>	6.8	11.6	25.3	20.5	16.4	4.8	6.2	2.7	5.5	91.5

※『この冬のボーナス』とは 2014 年冬に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他の家族が受給したボーナスは含みません。

この冬のボーナスの手取り額は、手取り額でいくらだったのでしょうか。

「25～50 万円未満」の割合が３人に１人強（34.4%）で最も多く、以下「50～75 万円未満」（24.8%）、「75～100 万円未満」（14.2%）、「25 万円未満」（13.4%）と続き、平均は「60.1 万円」となっています。

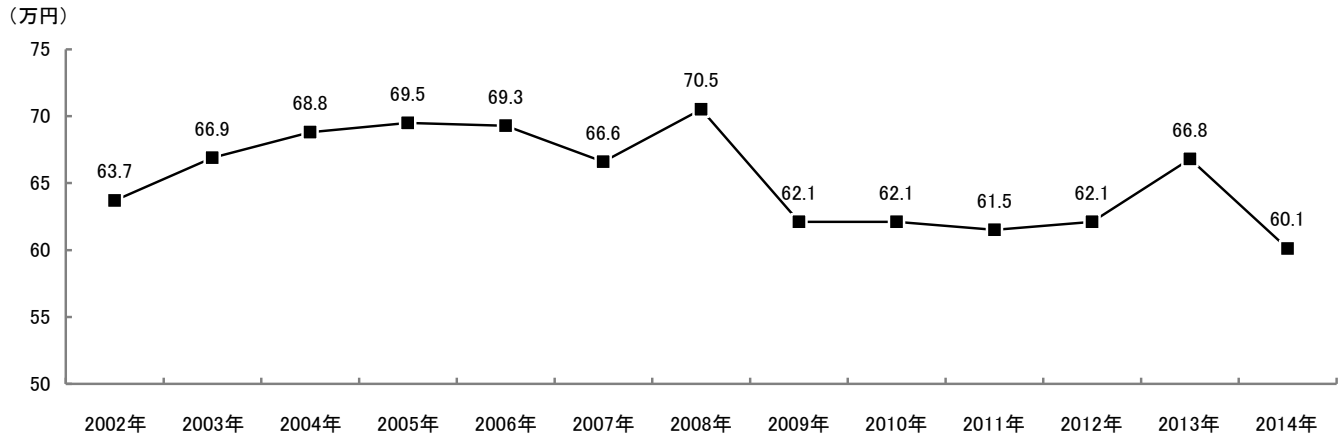
・妻の年代別に受給額の平均をみると、総じて高い年代ほど金額は高い傾向があり、《20 代》では 41.4 万円、《30 代》では 53.4 万円、《40 代》では 71.5 万円、《50 代》では 74.2 万円とかなりの差があります。

・夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに受給額は高くなり、《課長クラス以上》（91.5 万円）の人では、《役職なし》（43.1 万円）の人の２倍以上と大きな差が生じています。

■昨冬の調査結果との比較■

平均額は昨冬「66.8 万円」→今冬「60.1 万円」と、７万円近くも下がっています。

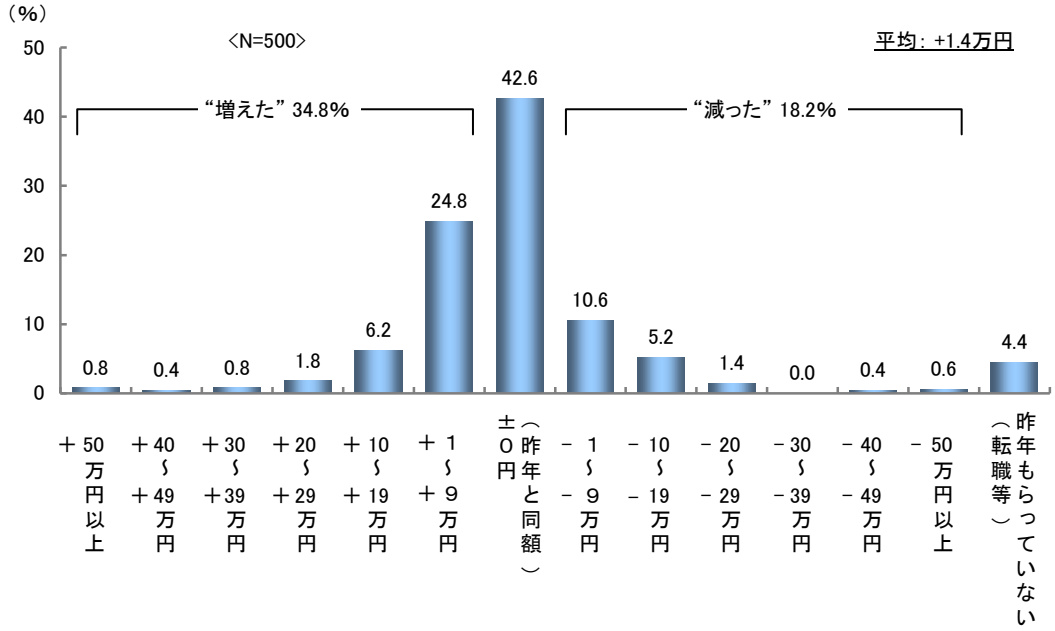
図 2. 冬のボーナスの手取り額（平均額の経年推移）



２．この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較

“増えた”(34.8%)が“減った”(18.2%)を大きく上回り、平均も「＋1.4 万円」と増加。

図 3．この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較



		＋50万円以上	＋40～＋49万円	＋30～＋39万円	＋20～＋29万円	＋10～＋19万円	＋1～＋9万円	±0円（昨年と同額）	－1～－9万円	－10～－19万円	－20～－29万円	－30～－39万円	－40～－49万円	－50万円以上	昨年もらっていない（転職等）
妻の年代	20 代 <n=125>	0.8	－	－	1.6	4.8	30.4	40.0	11.2	3.2	－	－	－	－	8.0
	30 代 <n=125>	－	－	－	0.8	6.4	31.2	41.6	10.4	5.6	－	－	－	－	4.0
	40 代 <n=125>	1.6	0.8	1.6	3.2	5.6	21.6	45.6	12.8	3.2	3.2	－	－	－	0.8
	50 代 <n=125>	0.8	0.8	1.6	1.6	8.0	16.0	43.2	8.0	8.8	2.4	－	1.6	2.4	4.8
夫の役職	役職なし <n=246>	0.4	－	－	1.2	4.1	25.6	43.5	13.0	4.5	0.4	－	0.4	－	6.9
	係長・主任クラス <n=108>	－	－	－	1.9	7.4	25.0	43.5	11.1	5.6	4.6	－	－	－	0.9
	課長クラス以上 <n=146>	2.1	1.4	2.7	2.7	8.9	23.3	40.4	6.2	6.2	0.7	－	0.7	2.1	2.7

この冬のボーナスは、昨年冬のボーナスと比べて増えたでしょうか、減ったでしょうか。

「＋１～９万円」(24.8%)など“増えた”(34.8%)という人が３分の１以上を占めており、「－１～９万円」(10.6%)など“減った”（18.2%）という人よりはるかに多くなっています。増減の平均も「＋1.4 万円」とやや増加しています。

・妻の年代別にみると、若い人ほど“増えた”、年代が上がるほど“減った”の割合が高い傾向がみられます。

・夫の役職別にみると、“増えた”の割合は《役職なし》(31.3%)、《係長・主任クラス》(34.3%）に比べて《課長クラス以上》(41.1%）で高くなっており、役職間の格差が広がっていることがうかがわれます。

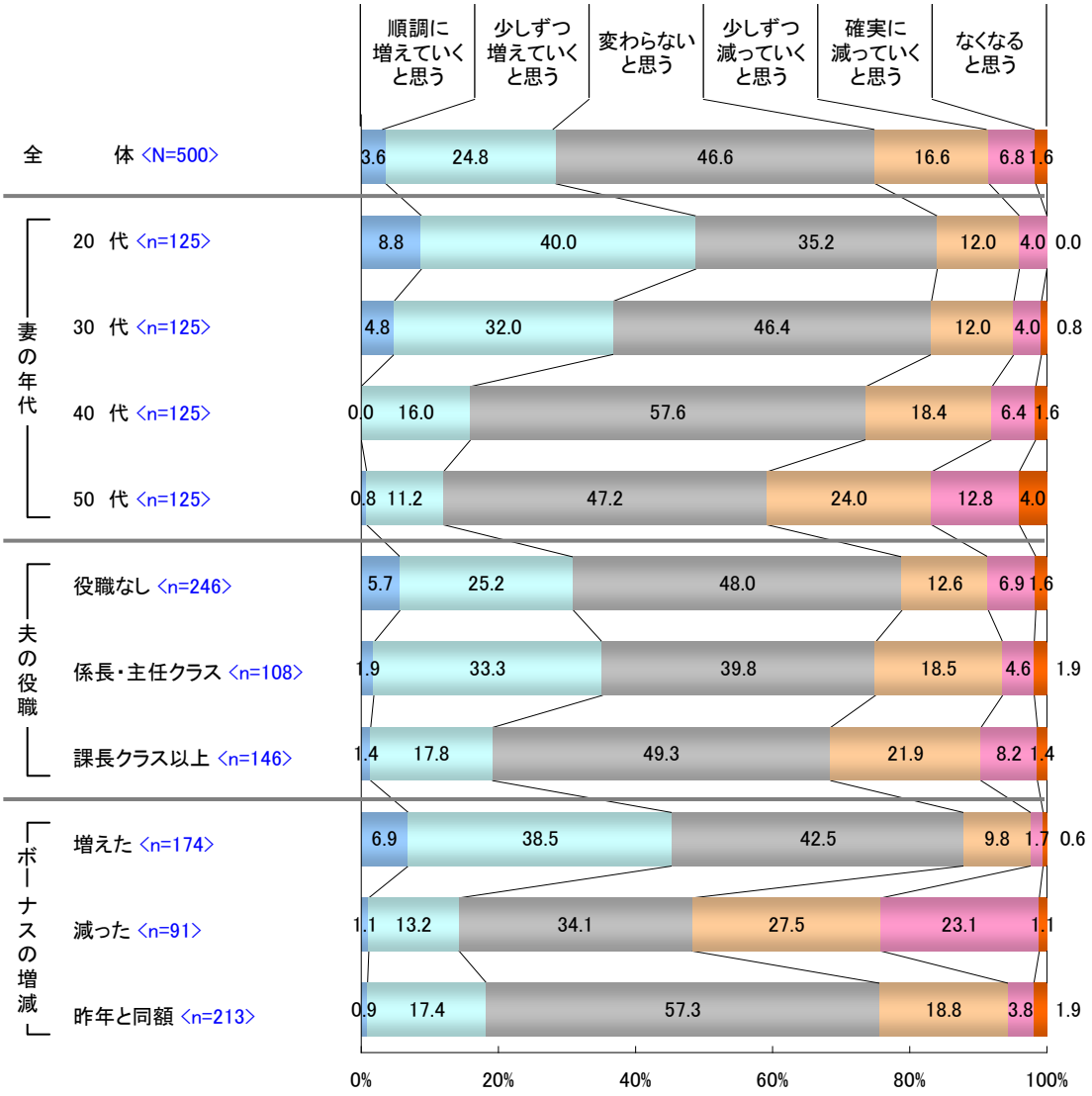
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、“増えた”（36.4%→34.8%)、“減った”（21.6%→18.2%）がやや減り、「±０円（昨年と同額)」(40.0%→42.6%)、「昨年もらっていない（転職等)」(2.0%→4.4%）がやや増えていますが、総じて大きな差はなく、前回と同様の増減傾向と言えます。受給額の増減の平均も「＋0.7 万円」→「＋1.4 万円」と大きくは変わりません。

３．ボーナスの今後の見通し

「変わらないと思う」(46.6%)が半数近くを占めるが、“増えていく”(28.4%)という楽観的な見通しが、“減っていく＋なくなる”(25.0%)という悲観的な見通しをやや上回る。

図 4. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いたところ、「変わらないと思う」(46.6%) との回答が半数近くを占めていますが、「順調に増えていくと思う」(3.6%)、「少しずつ増えていくと思う」(24.8%) を合わせた“増えていく”(28.4%) という楽観的な見通しは約３割であり、「少しずつ減っていくと思う」(16.6%)、「確実に減っていくと思う」(6.8%)、「なくなると思う」(1.6%) を合わせた“減っていく＋なくなる”(25.0%) という悲観的な見通しの人より若干多くなっています。

・妻の年代別にみると、若い年代ほど楽観的な見方をする人が多く、一方、高い年代では悲観的な見方が多くなっています。“増えていく（順調に＋少しずつ)”と思っている割合は《40 代》(16.0%)、《50 代》(12.0%) では１割台とごくわずかですが、《30 代》(36.8%) では３割台と大きく増え、《20 代》(48.8%) になると半数近くに達しています。

・夫の役職別にみると、役職が高いほど“減っていく＋なくなる”という悲観的な見方が多く、《役職なし》の人では21.1%、《係長・主任クラス》では25.0%、《課長クラス以上》では31.5%となっています。

・ボーナスの増減との関連をみると、当然かも知れませんが、ボーナスが《増えた》人で“増えていく”(45.4%)と考えている割合が半数近くに達しているのが目立ちます。今年ボーナスが増えたことで、来年以降への期待も高まっているようです。

■昨冬の調査結果との比較■

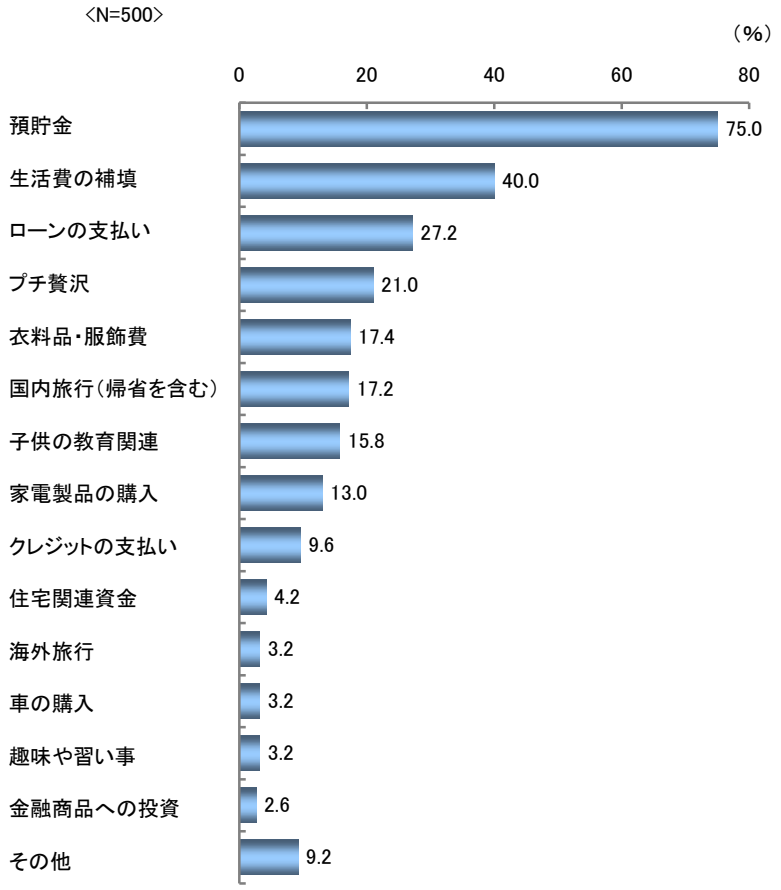
昨冬の調査結果と比べると、昨冬、調査開始以降初めて“増えていく”(29.8%)が“減っていく＋なくなる”(26.6%)を若干ながら上回りましたが、今冬も同様の傾向が続いています。

４．今回のボーナスの主な使い道

「預貯金」（75.0%）が目立って高く、“将来への備え”への思いは強い。次いで、「生活費の補填」（40.0%）、「ローンの支払い」（27.2%）など“家計のやりくり”に使う人も多く、以下「プチ贅沢」（21.0%）、「衣料品・服飾費」（17.4%）、「国内旅行（帰省を含む）」（17.2%）などに使われている。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳も、「預貯金」（46.8%）が半数近くと圧倒的。

図 5．今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの主な使い道については、「預貯金」（75.0%）を４人に３人があげ、他の項目に比べ目立って高い割合となっており、“将来への備え”としての利用を予定している人が多いようです。次いで「生活費の補填」（40.0%）、「ローンの支払い」（27.2%）といった“家計のやりくり”の用途が続いています。

以下、「プチ贅沢」（21.0%）、「衣料品・服飾費」（17.4%）、「国内旅行（帰省を含む）」（17.2%）、「子供の教育関連」（15.8%）などの順となっています。

表 1.　今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

（%）

		サンプル数	預貯金	生活費の補填	ローンの支払い	プチ贅沢	衣料品・服飾費	国内旅行（帰省を含む）	子供の教育関連	家電製品の購入	クレジットの支払い	住宅関連資金	海外旅行	車の購入	趣味や習い事	金融商品への投資	その他
全　体		500	75.0	40.0	27.2	21.0	17.4	17.2	15.8	13.0	9.6	4.2	3.2	3.2	3.2	2.6	9.2
妻の年代	20 代	125	78.4	28.0	20.0	20.0	16.0	16.0	5.6	8.8	6.4	7.2	2.4	4.0	4.8	0.8	10.4
	30 代	125	81.6	40.0	24.0	25.6	18.4	20.0	10.4	12.8	8.0	1.6	1.6	2.4	2.4	3.2	8.0
	40 代	125	68.8	45.6	36.0	18.4	20.0	22.4	28.8	13.6	12.0	4.0	4.0	1.6	1.6	2.4	10.4
	50 代	125	71.2	46.4	28.8	20.0	15.2	10.4	18.4	16.8	12.0	4.0	4.8	4.8	4.0	4.0	8.0
子供	い る	302	70.2	44.7	32.5	18.2	19.9	18.5	23.2	14.6	9.9	4.0	2.3	3.0	3.0	2.6	10.9
	いない	198	82.3	32.8	19.2	25.3	13.6	15.2	4.5	10.6	9.1	4.5	4.5	3.5	3.5	2.5	6.6
ローン	ある	215	68.8	47.0	50.7	23.7	17.2	14.0	17.2	13.5	10.2	2.8	3.7	3.7	3.7	2.8	9.3
	ない	285	79.6	34.7	9.5	18.9	17.5	19.6	14.7	12.6	9.1	5.3	2.8	2.8	2.8	2.5	9.1
世帯年収	600万円未満	212	73.1	42.9	18.4	21.7	16.0	17.9	10.4	11.8	7.5	4.2	1.4	1.4	2.8	0.5	12.7
	600～800万円未満	129	71.3	38.0	36.4	18.6	15.5	14.7	19.4	13.2	12.4	3.9	2.3	0.8	2.3	－	7.8
	800～1000万円未満	73	82.2	46.6	35.6	16.4	20.5	23.3	20.5	13.7	13.7	2.7	4.1	8.2	1.4	4.1	4.1
	1000万円以上	86	79.1	30.2	27.9	26.7	20.9	14.0	19.8	15.1	7.0	5.8	8.1	7.0	7.0	10.5	7.0
受給額	50万円未満	239	67.8	42.3	21.8	18.8	13.8	12.1	10.0	8.4	7.5	3.3	1.7	1.3	2.9	－	11.3
	50～100万円未満	195	83.1	39.5	30.3	22.1	21.0	22.1	22.1	17.4	11.8	4.6	3.6	4.6	3.1	3.6	9.2
	100万円以上	66	77.3	33.3	37.9	25.8	19.7	21.2	18.2	16.7	10.6	6.1	7.6	6.1	4.5	9.1	1.5

・妻の年代別にみると、「預貯金」は《20 代》（78.4%）、《30 代》（81.6%）では８割前後で、《40 代》（68.8%）、《50 代》（71.2%）の７割前後に比べて高い割合となっており、若い層で将来のために備えておこうという意識が強いようです。また、「子供の教育関連」は《40 代》（28.8%）で突出して多くなっています。

・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、「生活費の補填」（《いる》44.7%、《いない》32.8%）、「ローンの支払い」（同 32.5%、19.2%）、「子供の教育関連」（同 23.2%、4.5%）は《いる》人の方が高くなっています。一方、「預貯金」は《いない》（82.3%）人の方が《いる》（70.2%）人よりも 10 ポイント以上高く、さまざまな支払いをせずに済み、預貯金に回せるようです。また、「プチ贅沢」も《いない》（25.3%）人の方がやや高い割合です（《いる》人は 18.2%）。

・住宅ローンの有無別にみると、当然かも知れませんが、住宅ローンが《ある》人は「ローンの支払い」（50.7%）が半数を超えているのが目立ちます。一方、住宅ローンが《ない》人は「預貯金」（79.6%）の割合が、《ある》人（68.8%）に比べて 10 ポイント以上高くなっています。

・世帯年収別にみると、「預貯金」がいずれの層でも最も多くなっていますが、《600 万円未満》（73.1%）、《600～800 万円未満》（71.3%）の“800 万円未満”の層で７割程度なのに対し、《800～1000 万円未満》（82.2%）、《1000 万円以上》（79.1%）の“800 万円以上”の層では８割前後となっており、年収が多い世帯ほど「預貯金」に回す余裕があることがうかがえます。

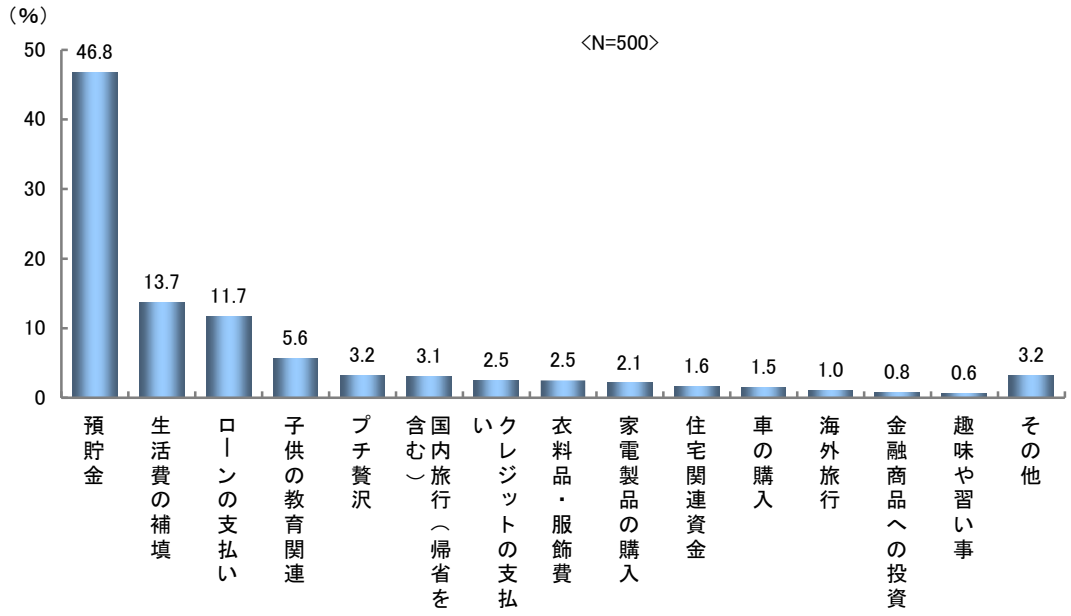
・ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど「プチ贅沢」、少ない人ほど「生活費の補填」が多く、受給額によってその使い道は大きく違うようです。

■昨冬の調査結果との比較■

「預貯金」（76.2%→75.0%）、「クレジットの支払い」（14.6%→9.6%）、「家電製品の購入」（17.2%→13.0%）、

「国内旅行（帰省を含む）」（20.6%→17.2%）など、昨冬よりも少しずつ減っている項目が多い中で、「生活費の補填」（37.4%→40.0%）だけはわずかに増えています。

図 6. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値を%に換算したもの）



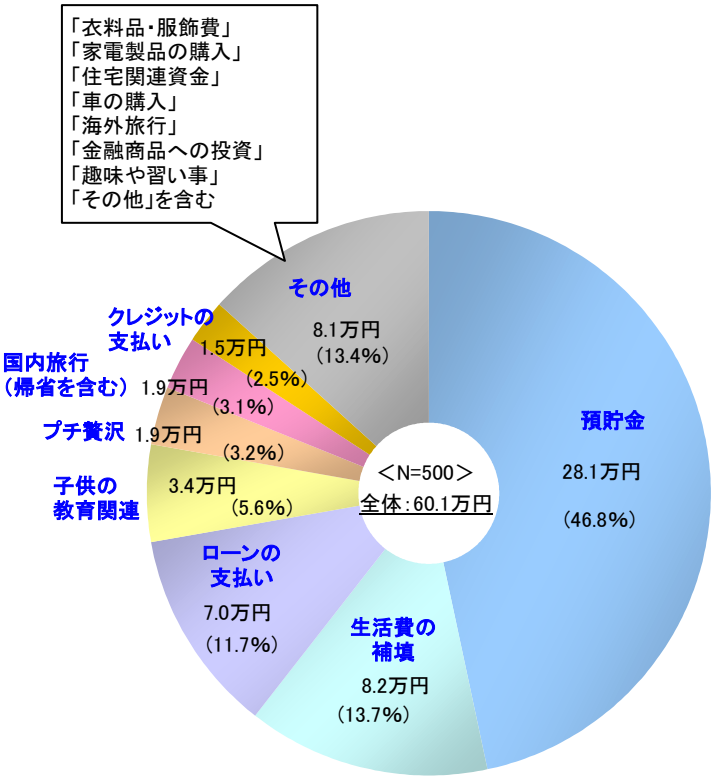
次に、冬のボーナス全額を「10 割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を%に換算したもの）。

割合の平均値をみると、「預貯金」が目立って高く、半数近く（46.8%）を占めています。以下、１割台で「生活費の補填」（13.7%）、「ローンの支払い」（11.7%）と続いており、この上位３項目で７割近く（72.2%）に達します。

■昨冬の調査結果との比較■

トップ３の順位は変化がありませんが、「預貯金」（43.9%→46.8%）、「生活費の補填」（12.9%→13.7%）、「ローンの支払い」（11.4%→11.7%）のいずれも微増となっています。

図 7. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（この冬のボーナス平均手取額 60.1 万円を総額とし、金額に換算）



参考までに、今回の冬のボーナスの平均手取額「60.1 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかを表してみたところ、トップの「預貯金」は 28.1 万円となりました。以下「生活費の補填」が 8.2 万円、「ローンの支払い」が 7.0 万円になります。

※例えば「国内旅行（帰省を含む）」は 1.9 万円であり、実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でならすと、一家庭当たり夫のボーナスから「国内旅行（帰省を含む）」に回す金額は 1.9 万円に当たることを示しています。

■昨冬の調査結果との比較■

今回は、受給総額の平均が「66.8 万円」→「60.1 万円」と減っているため、「預貯金」（29.3 万円→28.1 万円）、「生活費の補填」（8.6 万円→8.2 万円）、「ローンの支払い」（7.6 万円→7.0 万円）、「子供の教育関連」（4.0 万円→3.4 万円）など、いずれの項目も金額が減っています。

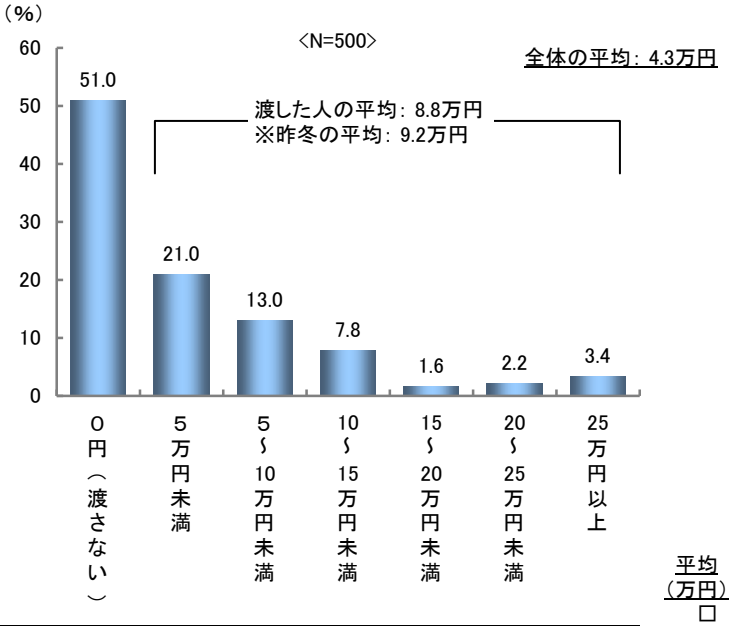
５．ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

「0円（渡さない）」は半数強（51.0%）。

“渡した（渡そうと思っている）”人では「5万円未満」（21.0%）、「5～10 万円未満」（13.0%）、「10～15 万円未満」（7.8%）などの順で、“渡した”人の平均は「8.8 万円」。

◆「0円（渡さない）」とした人の理由は、「必要な時にはその都度渡しているので」（35.7%）、「毎月お小遣いを渡しているので」（29.4%）、「将来に備えることの方が大事なので」（22.4%）、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」（21.6%）、「もらったボーナスが少ないので」（18.4%）などの順。

図 8. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



		0円（渡さない）	5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	平均（万円）□	渡した人の平均（万円）
妻の年代	20 代 <n=125>	56.0	21.6	12.0	4.0	－	1.6	4.8	3.7	8.3
	30 代 <n=125>	50.4	29.6	9.6	4.8	0.8	1.6	3.2	4.1	8.3
	40 代 <n=125>	44.8	22.4	14.4	9.6	2.4	2.4	4.0	5.2	9.4
	50 代 <n=125>	52.8	10.4	16.0	12.8	3.2	3.2	1.6	4.2	8.9
受給額	50万円未満 <n=239>	53.6	28.9	10.9	2.5	0.8	0.8	2.5	2.6	5.7
	50～100万円未満 <n=195>	52.3	15.9	15.4	9.2	1.5	1.5	4.1	4.9	10.3
	100万円以上 <n=66>	37.9	7.6	13.6	22.7	4.5	9.1	4.5	8.5	13.6

今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞きました。

「０円（渡さない）」（51.0%）が過半数を占めており、家計を預かる主婦の財布の紐の固さがうかがえるとともに、夫にとっては厳しい結果となっています。

渡した人では、「５万円未満」（21.0%）、「５～10 万円未満」（13.0%）、「10～15 万円未満」（7.8%）などの順で、“渡した”人の平均は「8.8 万円」となっています。なお、「０円（渡さない）」も含めた全員の平均は「4.3 万円」です。

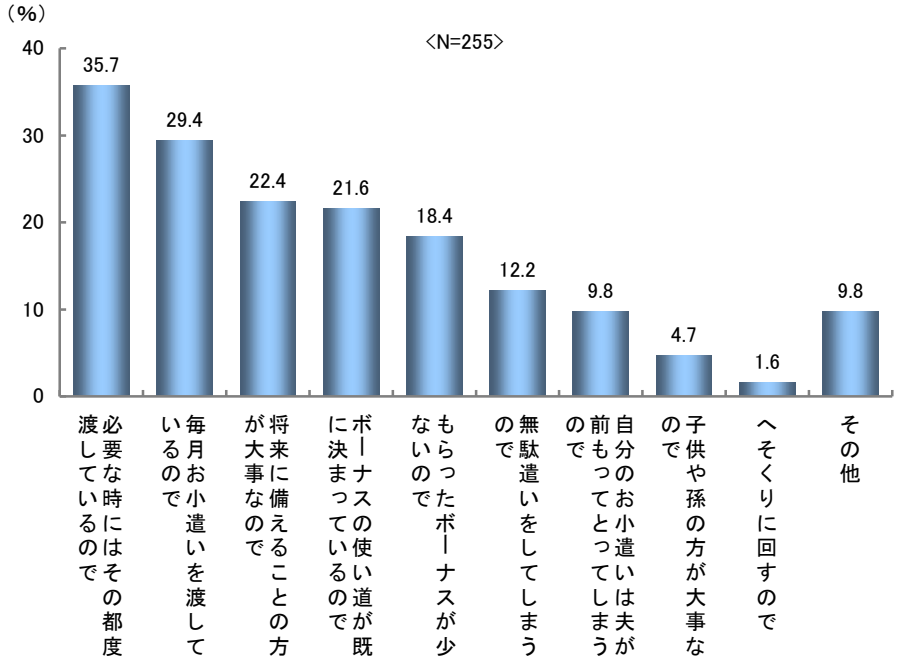
・妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、《40 代》（9.4 万円）が最も多くなっていますが、他の年代との差はあまり大きくありません。

・ボーナス受給額別に“渡した”人の平均金額をみると、やはり受給額が多いほど夫に渡した金額も多く、《50 万円未満》（5.7 万円）に比べ、《100 万円以上》（13.6 万円）では２倍以上の金額となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「０円（渡さない）」（46.6%→51.0%）、「５万円未満」（18.2%→21.0%）と低い金額の割合がやや増え、「５～10 万円未満」（18.6%→13.0%）、「10～15 万円未満」（12.0%→7.8%）の割合がやや減っており、渡した人の平均額（9.2 万円→8.8 万円）、全体の平均（4.9 万円→4.3 万円）も若干減少しています。先にみたように、ボーナスの受給額そのものが減ったことで、夫の取り分は確実に減っているようです。

図 9.「渡さない」理由（複数回答）



		必要な時にはその都度渡しているので	毎月お小遣いを渡しているので	将来に備えることの方が大事なので	ボーナスの使い道が既に決まっているので	もらったボーナスが少ないので	無駄遣いをしてしまうので	自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうので	子供や孫の方が大事なので	へそくりに回すので	その他
妻の年代	20 代 <n=70>	28.6	24.3	27.1	31.4	14.3	12.9	7.1	2.9	2.9	17.1
	30 代 <n=63>	41.3	23.8	25.4	14.3	14.3	14.3	11.1	6.3	－	7.9
	40 代 <n=56>	33.9	39.3	19.6	23.2	28.6	19.6	8.9	3.6	1.8	7.1
	50 代 <n=66>	39.4	31.8	16.7	16.7	18.2	3.0	12.1	6.1	1.5	6.1
受給額	50万円未満 <n=128>	31.3	28.1	25.0	24.2	28.9	15.6	7.0	7.0	1.6	10.2
	50～100万円未満 <n=102>	40.2	30.4	19.6	23.5	8.8	8.8	10.8	2.9	2.0	8.8
	100万円以上 <n=25>	40.0	32.0	20.0	－	4.0	8.0	20.0	－	－	12.0

「０円（渡さない）」と答えた人に、その理由を聞いてみたところ、「必要な時にはその都度渡しているので」（35.7%）、「毎月お小遣いを渡しているので」（29.4%）、「将来に備えることの方が大事なので」（22.4%）、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」（21.6%）、「もらったボーナスが少ないので」（18.4%）などの順となっています。

・妻の年代別にみると、「将来に備えることの方が大事なので」は若い人ほど多くあげています。

・ボーナス受給額別にみると、受給額《50 万円未満》の人で「もらったボーナスが少ないので」（28.9%）が飛び抜けて多くなっているのが目立ちます。また、「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうので」は受給額が多い人ほど高い割合となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬と比べ、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」（17.2%→21.6%）が４%強増えているのが最も大きな違いで、総じてあまり変化はありません。

６．臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

芸能界では「嵐」（25 件）と「日本エレキテル連合」（24 件）、スポーツ界では「錦織圭」（83 件）と「羽生結弦」（78 件）、その他の分野では「自分」（10 件）のほか「赤崎勇・天野浩・中村修二（ノーベル物理学賞受賞者）」（9 件）、「マララ・ユスフザイ（ノーベル平和賞受賞者）」（4 件）などに臨時ボーナスをあげたい。

◆渡してあげたいボーナス金額（平均）は、「マララ・ユスフザイ（ノーベル平和賞受賞者）」（5,150 万円）、「大谷翔平」（3,025 万円）、「浅田真央」（2,809 万円）がトップ3。

2014 年に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2.　臨時ボーナスをあげたいと思う人（芸能人）

芸能界				
順位		件数	平均金額（万円）□	最高額（万円）
1	嵐	25	433	1,000
2	日本エレキテル連合	24	685	10,000
3	ふなっしー	8	154	274
	高倉健	8	888	1,000
5	タモリ	6	2,400	10,000
6	SMAP	3	533	1,000
	高橋みなみ	3	217	500
	松たか子	3	383	1,000

まず、芸能界では、「嵐」（25 件）と並んで、2014 年にブレイクした女性お笑いコンビの「日本エレキテル連合」（24 件）が多くなっています。以下はかなり少なくなりますが、「ふなっしー」（8 件）、「高倉健」（8 件）、「タモリ」（6 件）が続いています。

表 3.　臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界				
順位		件数	平均金額（万円）□	最高額（万円）
1	錦織圭	83	2,274	30,000
2	羽生結弦	78	404	5,000
3	浅田真央	11	2,809	30,000
4	葛西紀明	6	167	500
5	大谷翔平	4	3,025	10,000
6	高橋大輔	4	645	2,000
	田中将大	4	103	200

スポーツ界では、全米オープンで決勝に進出するなどテニスで活躍した「錦織圭」（83 件）がトップで、次いで

ソチ五輪で金メダルを獲得したフィギュアスケートの「羽生結弦」(78 件) も僅差で続いています。以下、「浅田真央」(11 件)、「葛西紀明」(6 件)、「大谷翔平」(4 件)、「高橋大輔」(4 件)、「田中将大」(4 件) などの順となっており、フィギュアスケート、スキージャンプ、野球の選手が上位を占めています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他				
順位		件数	平均金額（万円）□	最高額（万円）
1	自分	10	1,054	10,000
2	赤崎勇・天野浩・中村修二（ノーベル物理学賞受賞者）	9	981	5,000
3	マララ・ユスフザイ（ノーベル平和賞受賞者）	4	5,150	10,000
4	両親	4	1,276	5,000

その他の分野では、「自分」(10 件) が最も多いほか、「赤崎勇・天野浩・中村修二（ノーベル物理学賞受賞者)」(9 件)、「マララ・ユスフザイ（ノーベル平和賞受賞者)」(4 件) とノーベル賞の受賞者が続いています。

なお、あげたいと思う金額の平均は、芸能界、スポーツ界、その他の分野を合わせて「マララ・ユスフザイ（ノーベル平和賞受賞者)」(5,150 万円) が最も高く、次いで「大谷翔平」(3,025 万円)、「浅田真央」(2,809 万円) の順となっています。

表 5. 〈参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ 10〉

順位		得票数
1	錦織圭	83
2	羽生結弦	78
3	嵐	25
4	日本エレキテル連合	24
5	浅田真央	11
6	自分	10
7	赤崎勇・天野浩・中村修二（ノーベル物理学賞受賞者）	9
8	ふなっしー	8
	高倉健	8
10	タモリ	6
	葛西紀明	6

順位		平均金額（万円）
1	マララ・ユスフザイ（ノーベル平和賞受賞者）	5,150
2	大谷翔平	3,025
3	浅田真央	2,809
4	タモリ	2,400
5	錦織圭	2,274
6	両親	1,276
7	自分	1,054
8	赤崎勇・天野浩・中村修二（ノーベル物理学賞受賞者）	981
9	高倉健	888
10	日本エレキテル連合	685

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の第１位と比べると、

【芸能界】　「堺雅人」（39 件）　→　「嵐」（25 件）
【スポーツ界】　「田中将大」（117 件）　→　「錦織圭」（83 件）
【その他】　「ふなっしー」（13 件）　→　「自分」（10 件）

と、いずれも入れ替わっています。

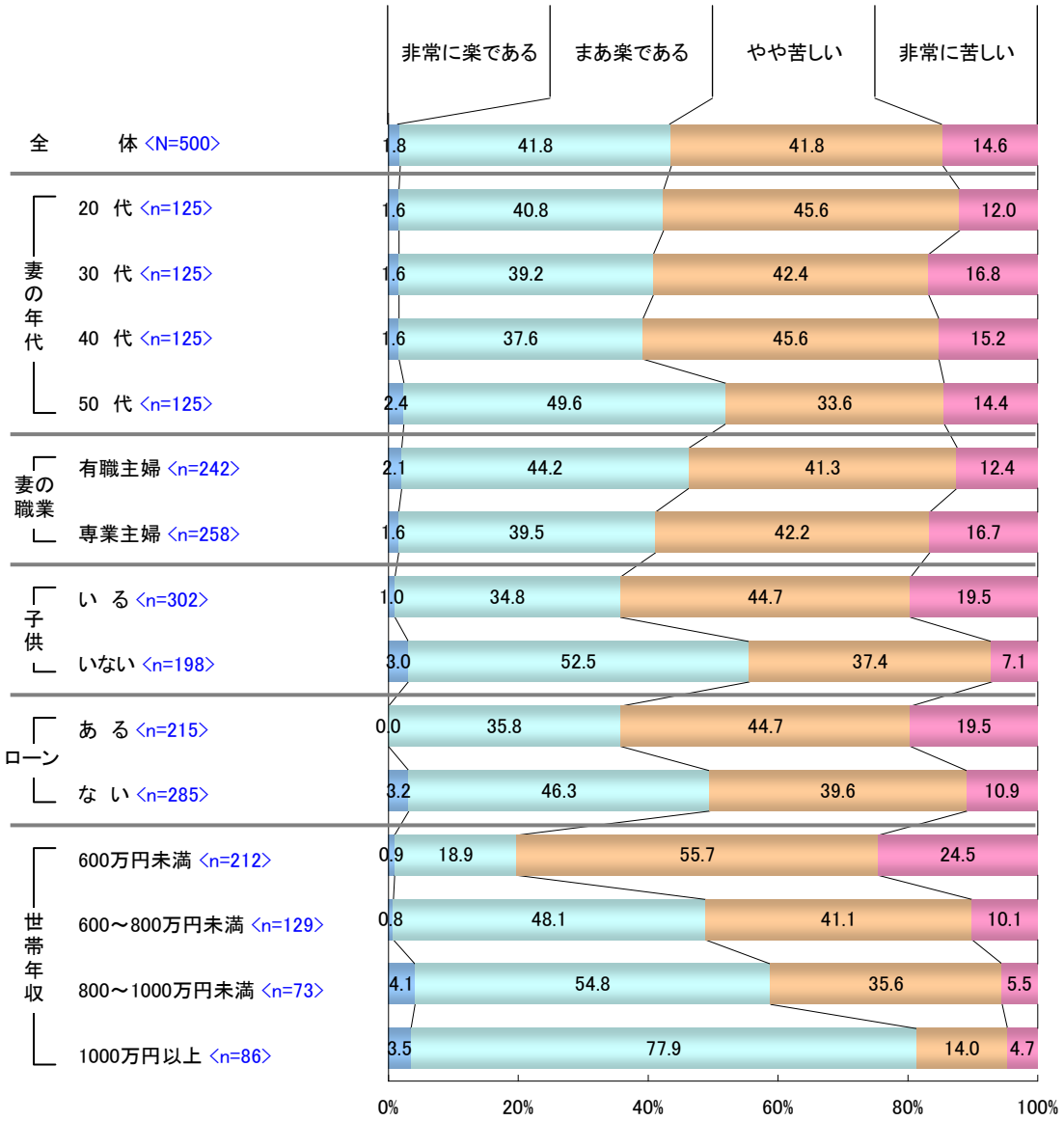
Ⅱ わが家の家計

1．現状で、家計は苦しいと感じるか

“苦しい”(56.4%)の方が“楽である”(43.6%)よりもかなり多く、依然として“厳しい”という認識が強い。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 10. 現状で、家計は苦しいと感じるか



現状で、家計は苦しいと感じるかどうかを聞いたところ、「非常に楽である」(1.8%)、「まあ楽である」(41.8%)を合わせた“楽である”(43.6%)は４割程度にとどまり、「やや苦しい」(41.8%)、「非常に苦しい」(14.6%)を合わせた“苦しい”(56.4%)という人の方が多くなっています。依然として家計は苦しい状態が続いているようです。

・妻の年代別にみると、40 代までは“楽である”よりも“苦しい”の方が多くなっていますが、《50 代》になると“楽である”（52.0%）が“苦しい”（48.0%）をやや上回り、余裕が出てくるようです。

・妻の職業別にみると、いずれも“楽である”よりも“苦しい”の方が高い割合ですが、その割合は《有職主婦》（53.7%）よりも《専業主婦》（58.9%）の方がやや高く、やはり妻が働いている方が多少は余裕があるようです。

・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、“苦しい”の割合は、独立していない子供が《いる》（64.2%）人の方が《いない》（44.4%）人よりも約 20 ポイントも高く、子供を育てることが家計に与える影響が非常に大きいことが分かります。

・住宅ローンの有無別にみると、“苦しい”という認識は、ローンが《ある》（64.2%）人の方がやはり高く、《ない》（50.5%）人よりも 10 ポイント以上も高くなっています。

・世帯年収別にみると、当然ながら年収が高くなるほど“楽である”の割合が高く、《1000 万円以上》では大半が“楽である”（81.4%）としていますが、《800～1000 万円未満》では６割弱（58.9%）、《600～800 万円未満》（48.8%）では半数を下回り、《600 万円未満》（19.8%）になると２割弱にとどまり、“苦しい”（80.2%）が大多数となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

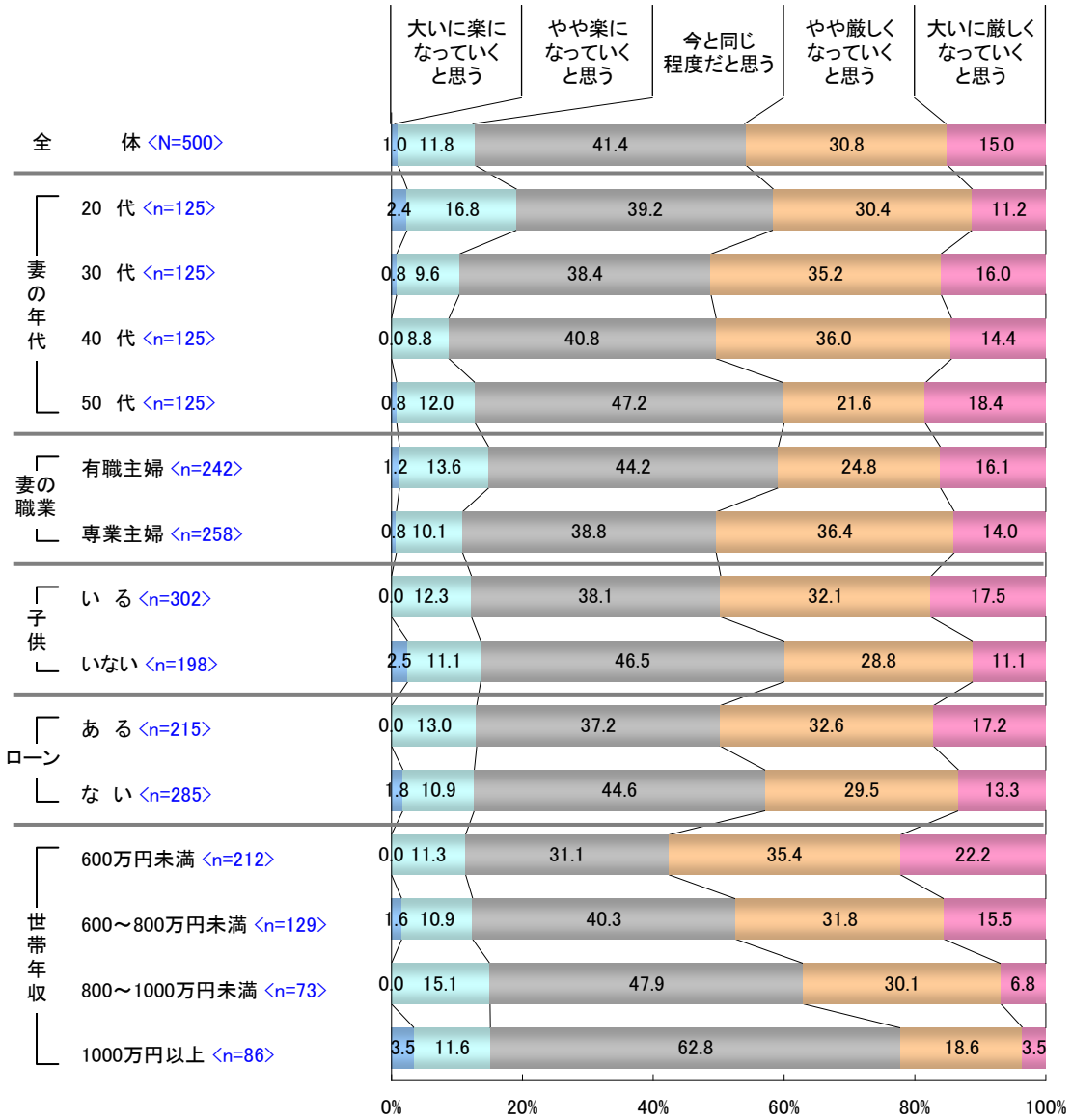
昨冬の調査結果と比べると、“楽である”（47.0%→43.6%）がやや減り、“苦しい”（53.0%→56.4%）がやや増えており、わずかな差ではありますが、家計の状況は悪化しているようです。

２．今後の家計の見通し

“厳しくなっていく”（45.8%）という方が“楽になっていく”（12.8%）よりもはるかに多く、今後の家計の見通しは厳しい。

※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや楽になっていくと思う」「大いに楽になっていくと思う」の合計を表します。

図 11．今後の家計の見通し



次に今後の家計の見通しを聞いたところ、「大いに楽になっていくと思う」（1.0%）、「やや楽になっていくと思う」（11.8%）を合わせた“楽になっていくと思う”（12.8%）は１割程度と少なく、「やや厳しくなっていくと思う」（30.8%）、「大いに厳しくなっていくと思う」（15.0%）を合わせた“厳しくなっていくと思う”（45.8%）という方がはるかに多くなっています。また、「今と同じ程度だと思う」は約４割（41.4%）で、今後の家計の見通しについては厳しい見方が多い結果となっています。

・妻の年代別にみると、“厳しくなっていく”と考えている割合は、《30 代》（51.2%）、《40 代》（50.4%）で高め、《20 代》（41.6%）、《50 代》（40.0%）で低めとなっています。

・そのほかの属性別にみると、妻の職業別では《有職主婦》よりも《専業主婦》の方が、独立していない子供（扶養中の子供）の有無別では《いない》人よりも《いる》人の方が、住宅ローンの有無別では《ない》人よりも《ある》人の方が、それぞれ“厳しくなっていく”という割合が高く、また世帯年収別では年収が低い人ほど“厳しくなっていく”割合は高くなっており、それぞれの家庭の状況を反映しています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、“楽になっていく”（15.8%→12.8%）、“厳しくなっていく”（41.0%→45.8%）といずれもわずかな変化で、まだまだ厳しい状況は続くという見通しが主になっています。

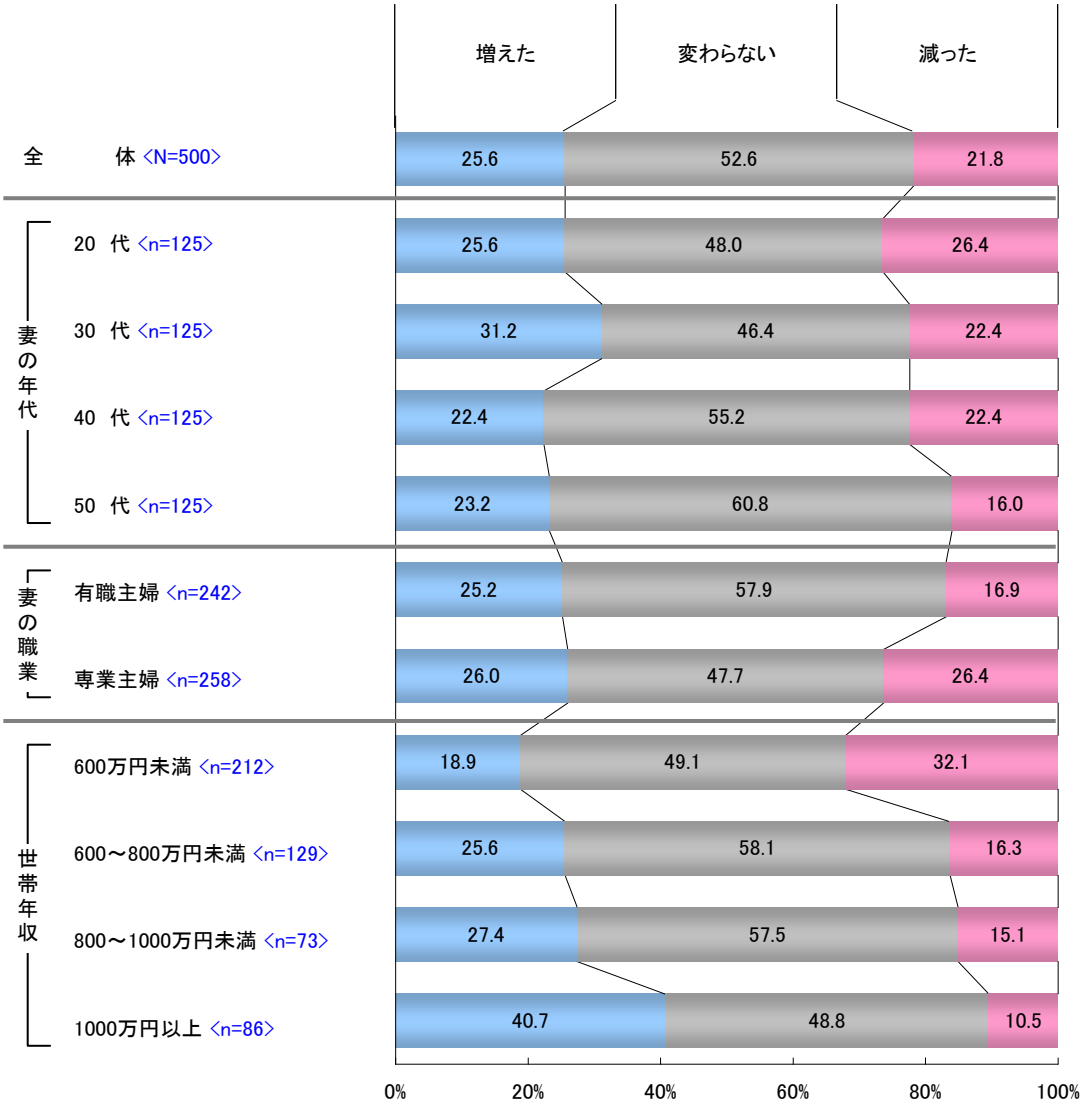
３．「金融資産の残高」の増減

「変わらない」(52.6%)と「減った」(21.8%)を合わせた 74.4%が金融資産の残高が「増えなかった」。「増えた」(25.6%)は2割台。

◆「増えた」金額は平均「117.0 万円」、「減った」金額は「130.2 万円」。

◆「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(53 件)、「節約したから」(19 件)、「ボーナスを貯金したから」(13 件)など“貯金した、節約した”という理由が多い中、「株などで運用益が出たので」(16 件)という理由も。「減った」理由は、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(27 件)、「子供の教育費に使ったから」(24 件)、「車を購入したので」(11 件)など“出費がかさんだ”ことのほか、「収入が減ったため」(10 件)も。

図 12. 「金融資産の残高」の増減



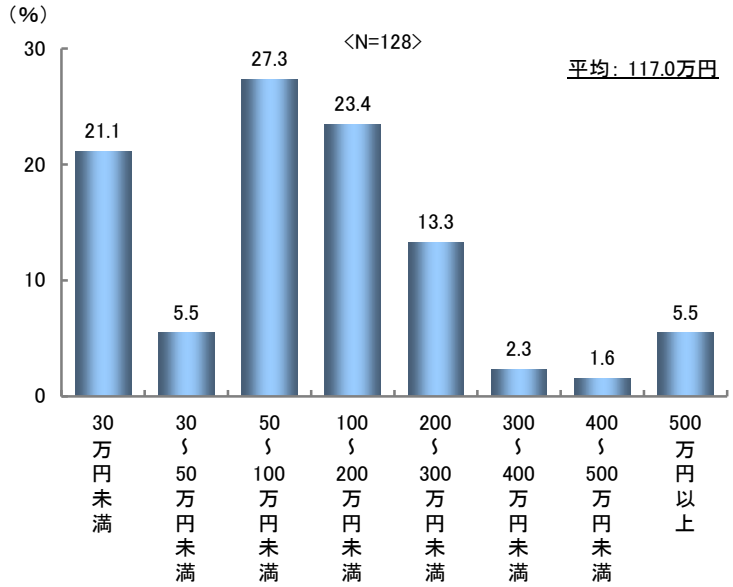
世帯の預貯金や有価証券などを合わせた「金融資産の残高」が今年１年で増えたか、減ったかを聞いたところ、「増えた」は 25.6%にとどまり、「変わらない」(52.6%) と「減った」(21.8%) を合わせた 74.4%が金融資産の残高が「増えなかった」と回答しました。

・妻の年代別にみると、若い人ほど「減った」が高い傾向がみられます。

・妻の職業別では、「減った」とする割合は《専業主婦》（26.4%）が《有職主婦》（16.9%）を約 10 ポイント上回っています。

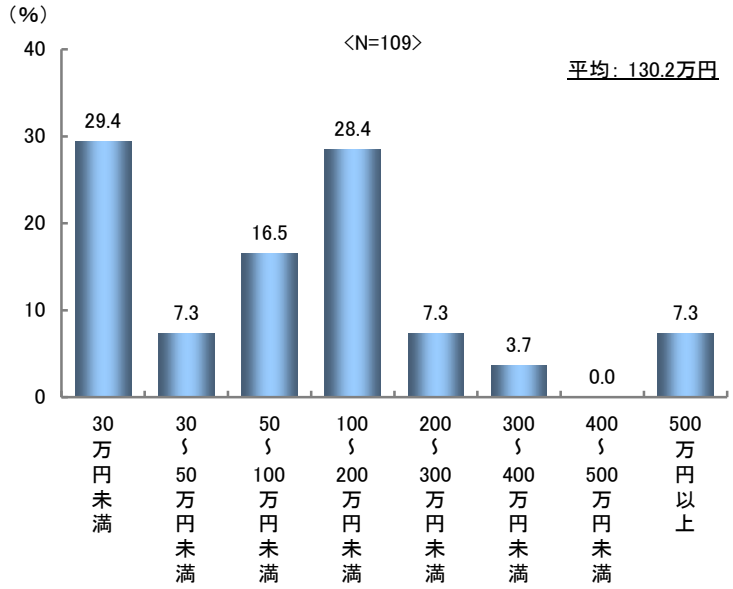
・世帯年収別では、年収が高い人ほど「増えた」割合が高く、年収《600 万円未満》（18.9%）では２割に満たないのに対し、《1000 万円以上》（40.7%）では４割に達しています。

図 13. 増えた額



世帯の金融資産が「増えた」と答えた人に、**増えた金額**を聞いてみたところ、「50～100 万円未満」（27.3%）、「100～200 万円未満」（23.4%）、「30 万円未満」（21.1%）、「200～300 万円未満」（13.3%）などの順で、平均は「117.0 万円」となっています。

図 14. 減った額



一方、**「減った」金額**は、「30 万円未満」（29.4%）、「100～200 万円未満」（28.4%）がともに３割近くで多く、以

下「50～100 万円未満」(16.5%)、「30～50 万円未満」(7.3%)、「200～300 万円未満」(7.3%)、「500 万円以上」(7.3%)などさまざまです。平均は「130.2 万円」で、増えた金額（117.0 万円）よりも 10 万円以上高くなっています。

表 6. “金融資産の残高”の増減の理由（自由回答：件）

＜増えた理由＞

順位		件数
1	こつこつ貯めたから・定期預金	53
2	節約したから	19
3	株などで運用益が出たので	16
4	ボーナスを貯金したから	13
5	自分も働くようになったので	8
6	昇給などで収入が増えたから	7
7	保険金の支払い・退職金などの臨時収入があったから	6
8	子供にかかる費用・ローンが減ったので	4

＜減った理由＞

順位		件数
1	家を購入したので・住宅ローンに充てたので	27
2	子供の教育費に使ったから	24
3	車を購入したので	11
4	収入が減ったため	10
5	引っ越したため	7
6	消費税が上がったため	6
	生活費に補填したから	6
	入院・出産など医療費が増えたため	6
9	冠婚葬祭に使ったため	5
10	旅行や趣味などに使ったため	4

＜変わらない理由＞

順位		件数
1	収支が変わらないため	38
2	ローンや生活費などで貯金できなかったから	36
3	生活に変化がなかったため	32
4	貯金に手をつけていないから	26
5	元々資産はないから	23
6	収入が増えても支出も多かったため	15
7	特に運用などをしていないから	8
8	変わらないように努力しているから	4
9	把握していない・夫がそう言っているから	3

“金融資産の残高”が増減した理由を具体的に聞いてみました。

「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(53 件)、「節約したから」(19 件)、「ボーナスを貯金したから」(13 件）など“貯金した、節約した”という理由が多くなっている中、株高の影響か「株などで運用益が出たので」(16 件）という理由もあげられています。

「減った」理由は、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(27 件)、「子供の教育費に使ったから」(24 件)、「車を購入したので」(11 件）など“出費がかさんだ”ことをあげる人が多くなっていますが、「収入が減ったため」(10 件）という回答もみられます。

「変わらない」という理由は、「収支が変わらないため」(38 件)、「ローンや生活費などで貯金できなかったから」(36 件)、「生活に変化がなかったため」(32 件)、「貯金に手をつけていないから」(26 件）などが多くなっていますが、「元々資産はないから」(23 件）といった理由もあげられています。

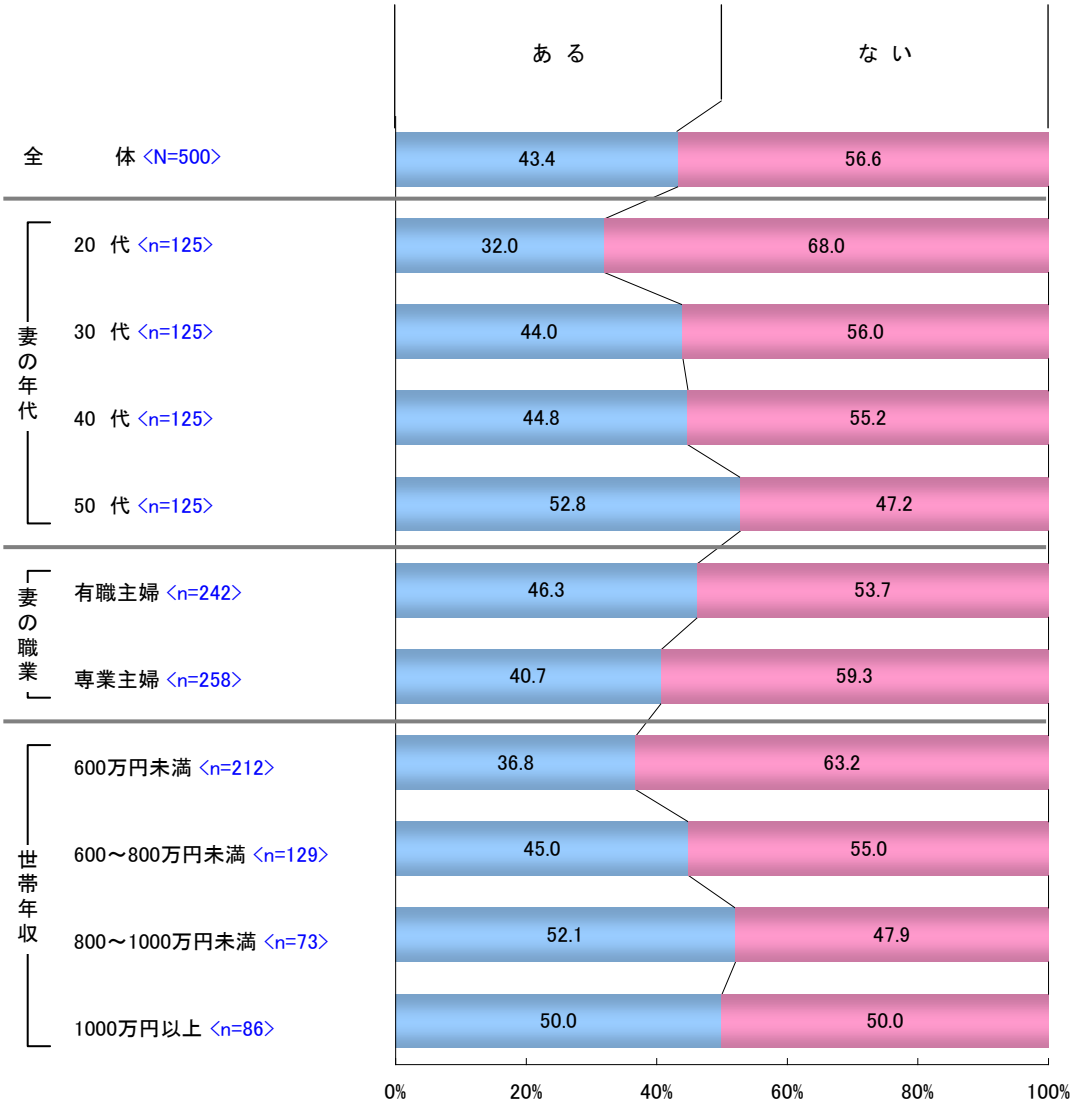
Ⅲ 夫に内緒の資産

1．『夫に内緒の資産』の保有状況

4割強（43.4%）が『夫に内緒の資産』を「持っている」。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 15. 『夫に内緒の資産』を持っているか



サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いたところ、「持っている」のは４割強（43.4%）となっています。

・妻の年代別にみると、「持っている」割合は年代とともに高くなっており、《20 代》の３割強（32.0%）に対

し、《50 代》（52.8%）では約 20 ポイントも高い割合に達しています。

・妻の職業別では、『夫に内緒の資産』の保有率は《有職主婦》（46.3%）の方が《専業主婦》（40.7%）よりもやや高く、仕事を持っている分『夫に内緒の資産』も形成しやすいようです。

・世帯年収別にみると、世帯年収が高くなるほど保有率も高く、《600 万円未満》（36.8%）では３割台、《600～800 万円未満》（45.0%）では４割台、《800～1000 万円未満》（52.1%）、《1000 万円以上》（50.0%）では５割台となっています。

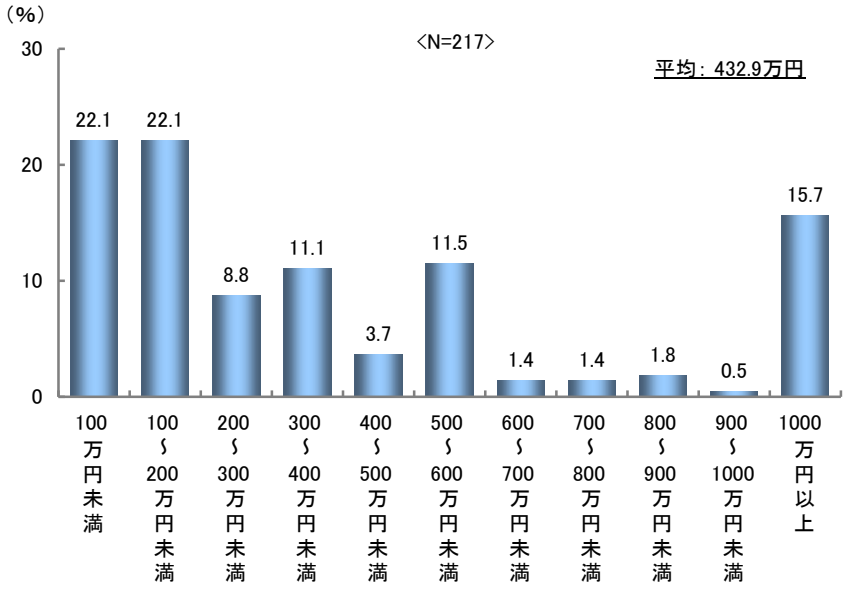
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、保有者の割合は 39.4%→43.4%とやや増えています。

２．『夫に内緒の資産』の保有額

「100 万円未満」(22.1%)、「100～200 万円未満」(22.1%)、「1000 万円以上」(15.7%)と人によって大きな差がある。平均は「432.9 万円」。

図 16.『夫に内緒の資産』をいくらくらい持っているか



		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1000万円以上	平均（万円）□
妻の年代	20 代 <n=40>	32.5	32.5	7.5	10.0	5.0	2.5	2.5	－	2.5	－	5.0	259.9
	30 代 <n=55>	25.5	21.8	10.9	12.7	3.6	9.1	1.8	－	－	－	14.5	319.8
	40 代 <n=56>	17.9	21.4	14.3	10.7	5.4	12.5	－	5.4	1.8	－	10.7	458.8
	50 代 <n=66>	16.7	16.7	3.0	10.6	1.5	18.2	1.5	－	3.0	1.5	27.3	618.7
妻の職業	有職主婦 <n=112>	19.6	20.5	8.9	8.9	3.6	14.3	1.8	1.8	1.8	－	18.8	462.3
	専業主婦 <n=105>	24.8	23.8	8.6	13.3	3.8	8.6	1.0	1.0	1.9	1.0	12.4	401.9
世帯年収	600万円未満 <n=78>	28.2	32.1	14.1	11.5	1.3	3.8	1.3	1.3	－	－	6.4	225.4
	600～800万円未満 <n=58>	27.6	22.4	8.6	8.6	3.4	15.5	1.7	1.7	－	1.7	8.6	364.3
	800～1000万円未満 <n=38>	15.8	15.8	2.6	15.8	13.2	10.5	2.6	－	5.3	－	18.4	450.3
	1000万円以上 <n=43>	9.3	9.3	4.7	9.3	－	20.9	－	2.3	4.7	－	39.5	909.3

『夫に内緒の資産』を持っている人にその金額を聞いたところ、「100 万円未満」(22.1%)、「100～200 万円未満」(22.1%) が同率で多く、低い金額が上位を占めていますが、次いで「1000 万円以上」(15.7%) が続くなど、人によって大きな差があります。中には「２億円」「１億円」といった高額の資産を持っている人もいますが、そういった例外的な金額（５千万円以上）の人を除けば、資産保有者の平均額は「432.9 万円」です。

・妻の年代別に資産額の平均をみると、年代が上の人ほど多くなる傾向が強くみられ、「1000 万円以上」は《20 代》(5.0%) ではほとんどいませんが、《50 代》(27.3%) では３割近くに達しています。平均も《20 代》(259.9 万円) に対し、《50 代》(618.7 万円) では２倍以上の金額です。

・妻の職業別にみると、平均額は《有職主婦》(462.3 万円) の方が《専業主婦》(401.9 万円) よりも 60 万円ほど多くなっています。

・世帯年収別にみると、やはり年収が高い家庭の主婦ほど資産額は高く、《600 万円未満》(225.4 万円) では 200 万円程度なのに対し、《1000 万円以上》(909.3 万円) では 900 万円を超えています。

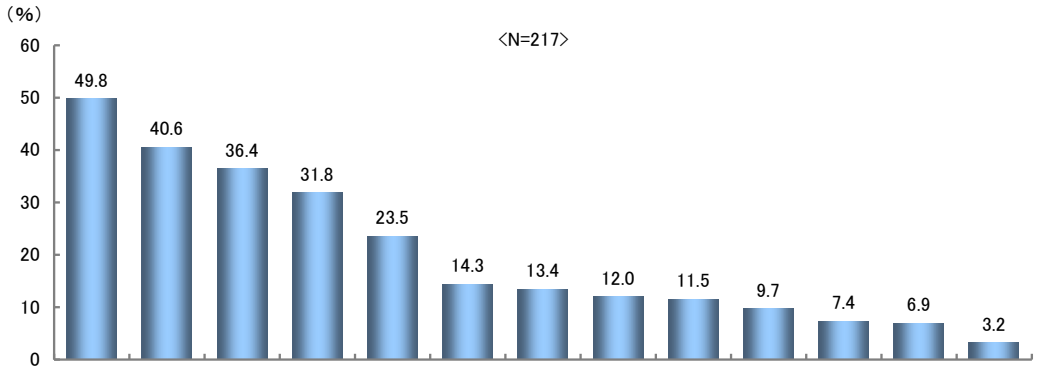
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、先にみたように平均所持率（39.4%→43.4%）も増えていましたが、持っている人の平均金額も「417.1 万円」→「432.9 万円」とやや増えています。

３．『夫に内緒の資産』を持つ目的

「老後（リタイア後）の備え」（49.8%）、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（40.6%）、「家族の病気などに備えて」（36.4%）など“いざという時のため”という目的が多いが、「自分の趣味や買い物のため」（31.8%）、「旅行資金」（13.4%）などの“楽しみのため”も少なくない。

図 17.『夫に内緒の資産』を持つ目的（複数回答）



		老後（リタイア後）の備え	子供の将来のため（教育費、結婚資金など）	家族の病気などに備えて	自分の趣味や買い物のため	夫の失業などに備えて	資産運用などの資金づくりを目指して	旅行資金	離婚のための備え	親の老後のため（入院・介護費用など）	自然災害の被害に備えて	住宅の購入やリフォーム資金	車や大型家電、家具など高額商品の購入資金	その他
妻の年代	20 代 <n=40>	35.0	47.5	32.5	35.0	27.5	12.5	12.5	15.0	7.5	12.5	15.0	12.5	5.0
	30 代 <n=55>	41.8	56.4	45.5	40.0	27.3	18.2	9.1	21.8	18.2	10.9	10.9	3.6	1.8
	40 代 <n=56>	41.1	35.7	39.3	30.4	28.6	12.5	16.1	8.9	8.9	8.9	7.1	8.9	7.1
	50 代 <n=66>	72.7	27.3	28.8	24.2	13.6	13.6	15.2	4.5	10.6	7.6	－	4.5	－
妻の職業	有職主婦 <n=112>	52.7	43.8	39.3	31.3	21.4	16.1	19.6	13.4	15.2	12.5	10.7	9.8	0.9
	専業主婦 <n=105>	46.7	37.1	33.3	32.4	25.7	12.4	6.7	10.5	7.6	6.7	3.8	3.8	5.7
世帯年収	600万円未満 <n=78>	43.6	53.8	42.3	28.2	37.2	11.5	5.1	16.7	6.4	10.3	7.7	11.5	5.1
	600～800万円未満 <n=58>	46.6	39.7	39.7	29.3	8.6	13.8	13.8	10.3	17.2	12.1	8.6	3.4	1.7
	800～1000万円未満 <n=38>	60.5	26.3	23.7	42.1	21.1	7.9	13.2	7.9	13.2	5.3	7.9	2.6	2.6
	1000万円以上 <n=43>	55.8	30.2	32.6	32.6	20.9	25.6	27.9	9.3	11.6	9.3	4.7	7.0	2.3

『夫に内緒の資産』をどのようなことに使うために持っているかを聞いたところ、「老後（リタイア後）の備え」（49.8%）が半数近くで最も多く、以下「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（40.6%）、「家族の病気などに備えて」（36.4%）、「自分の趣味や買い物のため」（31.8%）、「夫の失業などに備えて」（23.5%）、「資産運用などの資金づくりを目指して」（14.3%）、「旅行資金」（13.4%）、「離婚のための備え」（12.0%）、「親の老後のため（入院・介護費用など）」（11.5%）などの順となっており、“いざという時のため”が多いほか、“楽しみのため”も少なくないようです。

・妻の年代別にみると、「老後（リタイア後）の備え」は《20 代》（35.0%）、《30 代》（41.8%）、《40 代》（41.1%）の 40 代までは４割程度ですが、《50 代》（72.7%）になると７割以上と、急に増えています。一方、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」「自分の趣味や買い物のため」「夫の失業などに備えて」「離婚のための備え」などは若い人ほど多くあげています。

・妻の職業別にみると、「旅行資金」（有職主婦 19.6%、専業主婦 6.7%）など、《有職主婦》の方が総じて高い

割合の項目が多く、さまざまな理由から『夫に内緒の資産』を保有しています。

・世帯年収別にみると、年収が高い世帯の主婦ほど「旅行資金」をあげる割合が高い傾向がみられます。一方、《600 万円未満》の人では、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（53.8%）、「家族の病気などに備えて」（42.3%）、「夫の失業などに備えて」（37.2%）などが他の層に比べて高く、“いざという時のため”に蓄えている傾向が強くなっています。

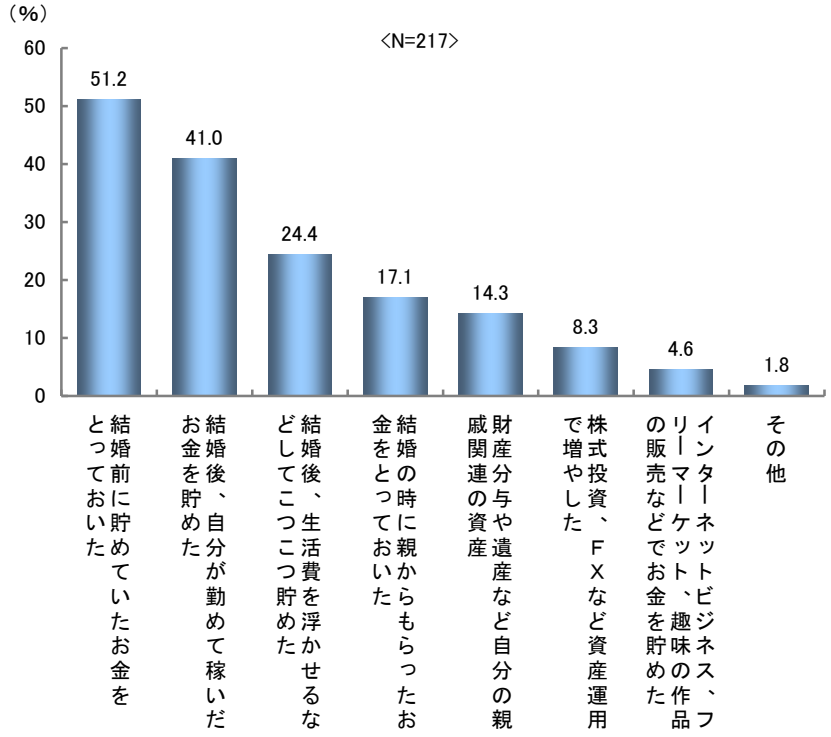
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（25.9%→40.6%）、「老後（リタイア後）の備え」（42.1%→49.8%）など、前回よりも増えている項目が多くなっていますが、「自分の趣味や買い物のため」（38.6%→31.8%）は前回よりも減っており、どちらかと言えば“いざという時のため”という目的が増えていると言えます。

４．『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(51.2%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(41.0%)と“自分で働いて貯めた”お金が元になっている人が多く、以下「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(24.4%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(17.1%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(14.3%)などの順。

図 18.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(51.2%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(41.0%)が続き、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。

以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(24.4%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(17.1%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(14.3%)などが続いています。

表 7.『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答：内緒の資産額別）

（%）

		サンプル数	結婚前に貯めていたお金をとっておいた	結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた	結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた	結婚の時に親からもらったお金をとっておいた	財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産	株式投資、FXなど資産運用で増やした	インターネットビジネス、フリーマーケット、趣味の作品などでお金を貯めた	その他
全　体		217	51.2	41.0	24.4	17.1	14.3	8.3	4.6	1.8
内緒の資産	100万円未満	48	27.1	31.3	39.6	10.4	4.2	4.2	8.3	4.2
	100～200万円未満	48	54.2	35.4	12.5	20.8	4.2	2.1	－	4.2
	200～300万円未満	19	68.4	42.1	15.8	31.6	21.1	－	－	－
	300～500万円未満	32	71.9	50.0	31.3	12.5	18.8	15.6	6.3	－
	500～1000万円未満	36	50.0	41.7	27.8	16.7	16.7	11.1	2.8	－
	1000万円以上	34	52.9	52.9	14.7	17.6	32.4	17.6	8.8	－

・参考までに『内緒の資産額』別の傾向をみると、サンプル数が少ないためにやや数値のバラつきがありますが、内緒の資産額が多い人ほど「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」や「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」が多い傾向がみられます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べ、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」（61.4%→51.2%）が減り、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」（35.0%→41.0%）などが増えています。

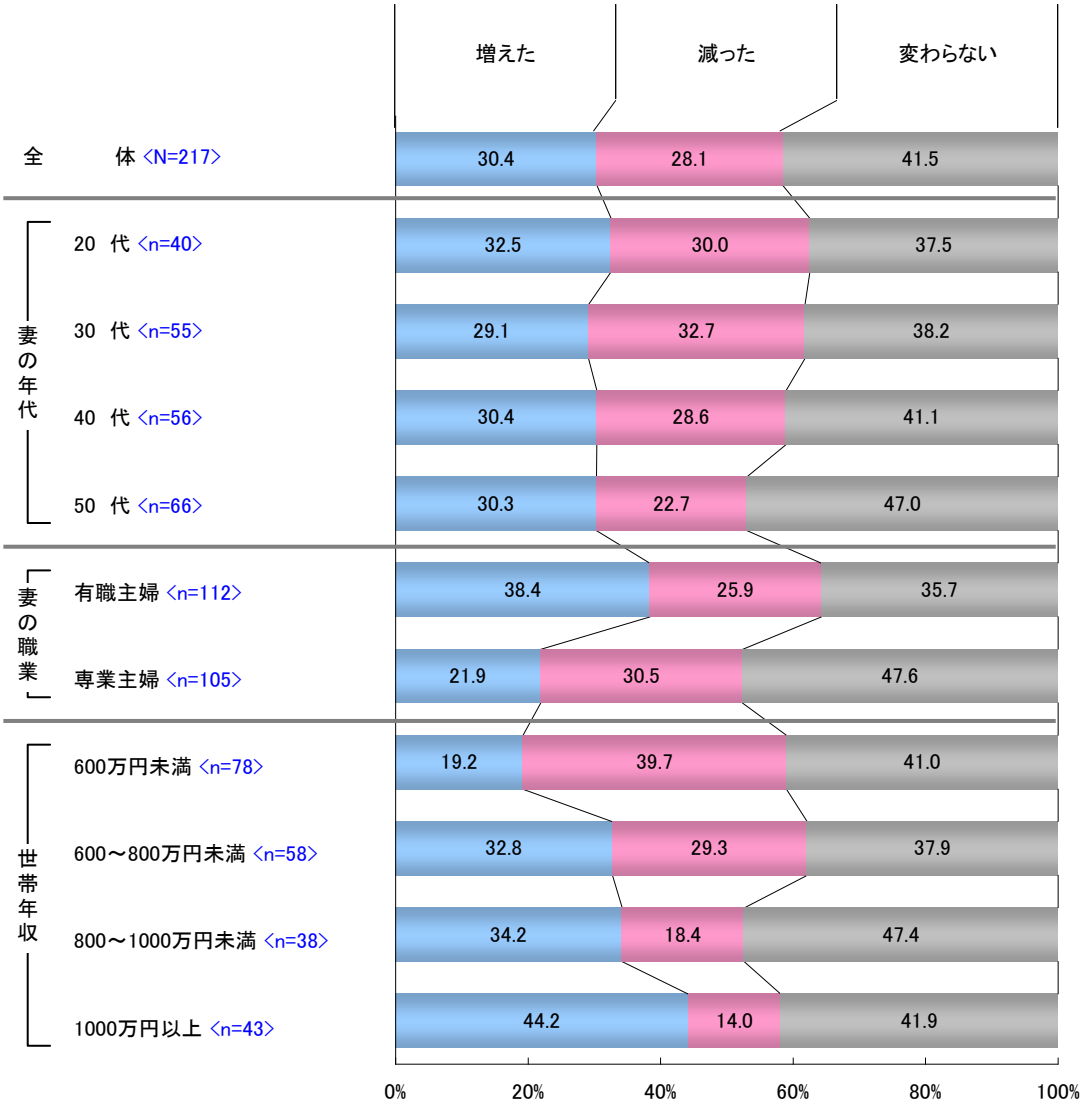
５．『夫に内緒の資産』の増減

2014 年に入ってからの“夫に内緒の資産”の増減は、「変わらない」が４割強（41.5%）を占めるほかは、「増えた」（30.4%）、「減った」（28.1%）がほぼ同数で、全体的にはあまり変化はない。

◆増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」（39.4%）と“不安”が最大の要因だが、「自分の収入や夫の収入が増えた」（34.8%）、「臨時収入があった」（9.1%）と“収入増”も大きい。

◆減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」（49.2%）が突出して多く、以下「臨時出費があった」（23.0%）、「収入が減り、へそくりできなくなった」（21.3%）の順。

図 19. 『夫に内緒の資産』の 2014 年に入ってからの増減



2014 年に入ってからの『夫に内緒の資産』の増減を聞いたところ、「変わらない」が４割強（41.5%）を占めるほかは、「増えた」（30.4%）、「減った」（28.1%）がともに３割程度で、全体的にはあまり変化はないようです。

・妻の年代別にみると、《50 代》で「変わらない」（47.0%）の割合が高く、「減った」（22.7%）の割合が低くなっています。

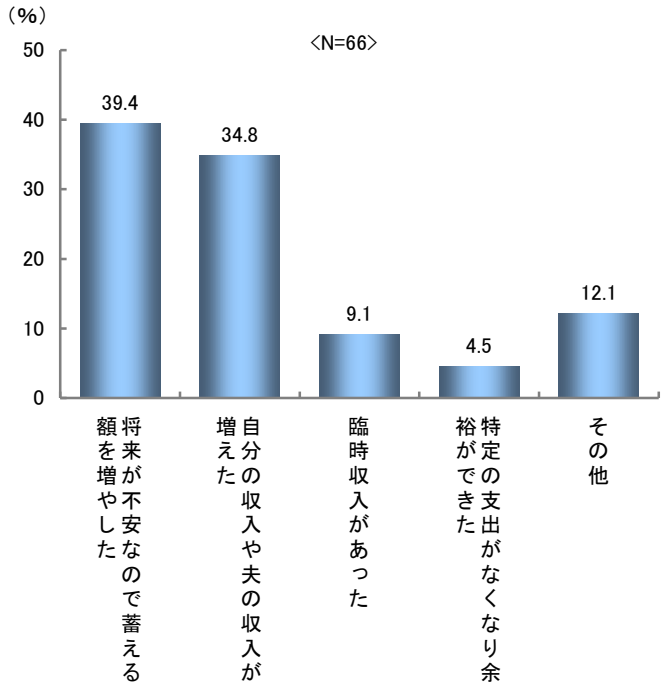
・妻の職業別にみると、《有職主婦》では「減った」（25.9%）よりも「増えた」（38.4%）という方が 10 ポイント以上高い割合ですが、《専業主婦》では逆に「増えた」（21.9%）よりも「減った」（30.5%）の方が多くなっており、やはり職業を持っている主婦の方が『夫に内緒の資産』は増やしやすいようです。

・世帯年収別にみると、年収が多いほど「増えた」、少ないほど「減った」が多い傾向が顕著で、年収《600 万円未満》の人では「増えた」（19.2%）よりも「減った」（39.7%）の方がはるかに多くなっていますが、600 万円以上の人ではいずれも「増えた」という方が多く、《1000 万円以上》の人では「増えた」（44.2%）という回答が４割を超えています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べてみると、「増えた」（29.4%→30.4%）がやや増え、「減った」（29.4%→28.1%）、「変わらない」（41.1%→41.5%）のいずれも大きな変化はありません。

図 20.『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由



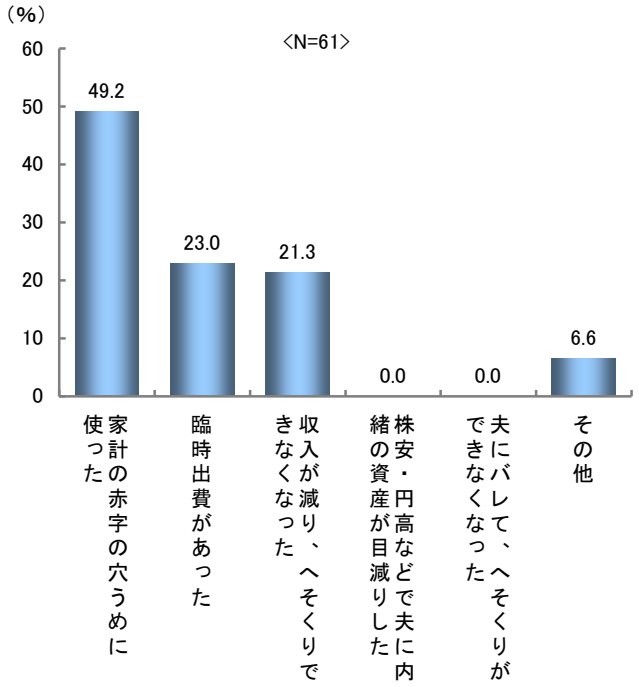
『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由をあげてもらったところ、「将来が不安なので蓄える額を増やした」（39.4%）と“不安”が最大の要因ですが、「自分の収入や夫の収入が増えた」（34.8%）、「臨時収入があった」（9.1%）と“収入増”も大きな理由となっています。

なお、「臨時収入があった」の具体的な内容としては、「親からの譲渡」「遺産」「今年結婚してもらった」と広い意味で“人からもらった”と、「投資信託で利益が出た」「株」「利息」と広い意味で“運用益が出た”がみられます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べ、今回は「臨時収入があった」（17.2%→9.1%）がやや減り、「将来が不安なので蓄える額を増やした」（36.2%→39.4%）、「自分の収入や夫の収入が増えた」（32.8%→34.8%）などがわずかに増えています。

図 21.『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」が突出して多く、ほぼ半数（49.2%）の人があげています。以下、「臨時出費があった」（23.0%）、「収入が減り、へそくりできなくなった」（21.3%）の順となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

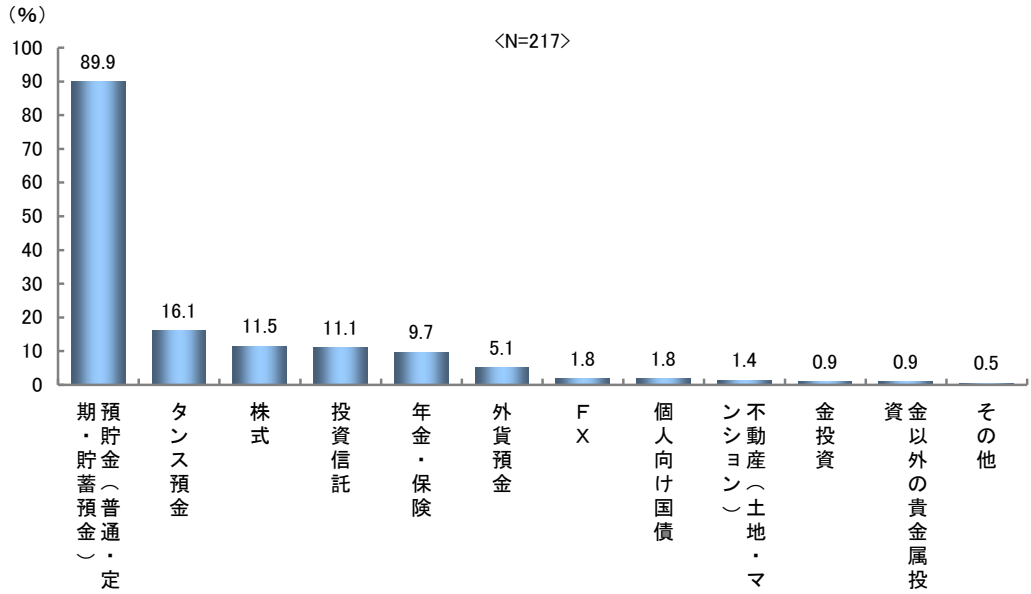
昨冬の調査結果と比べても、ほとんど違いはありません。

６．『夫に内緒の資産』の保有形態について

「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（89.9%）が圧倒的に多く、そのほかは「タンス預金」（16.1%）、「株式」（11.5%）、「投資信託」（11.1%）などの順。

今後保有したい形も、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（84.3%）が圧倒的に多く、以下「株式」（14.3%）、「タンス預金」（11.5%）など。

図 22.『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか（複数回答）



		預貯金（普通・定期・貯蓄預金）	タンス預金	株式	投資信託	年金・保険	外貨預金	FX	個人向け国債	不動産（土地・マンション）	金投資	金以外の貴金属投資	その他
妻の年代	20 代 <n=40>	82.5	10.0	10.0	10.0	12.5	5.0	5.0	2.5	－	2.5	2.5	－
	30 代 <n=55>	92.7	23.6	9.1	7.3	3.6	7.3	1.8	－	1.8	－	1.8	－
	40 代 <n=56>	94.6	12.5	10.7	10.7	12.5	3.6	1.8	3.6	1.8	1.8	－	－
	50 代 <n=66>	87.9	16.7	15.2	15.2	10.6	4.5	－	1.5	1.5	－	－	1.5
内緒の資産	100万円未満 <n=48>	77.1	33.3	－	2.1	2.1	－	2.1	－	－	－	－	－
	100～200万円未満 <n=48>	93.8	10.4	8.3	6.3	6.3	－	－	－	2.1	－	－	－
	200～300万円未満 <n=19>	94.7	10.5	－	10.5	10.5	5.3	－	－	－	－	－	－
	300～500万円未満 <n=32>	87.5	15.6	18.8	15.6	12.5	6.3	3.1	6.3	－	－	－	3.1
	500～1000万円未満 <n=36>	100.0	11.1	22.2	13.9	8.3	8.3	－	－	5.6	－	－	－
	1000万円以上 <n=34>	91.2	8.8	20.6	23.5	23.5	14.7	5.9	5.9	－	5.9	5.9	－

現在、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか、すなわち“へそくりの隠し場所”を聞いてみたところ、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（89.9%）が圧倒的に多くなっています。そのほかは多くても１割台ですが、「タンス預金」（16.1%）、「株式」（11.5%）、「投資信託」（11.1%）、「年金・保険」（9.7%）などの順となっています。

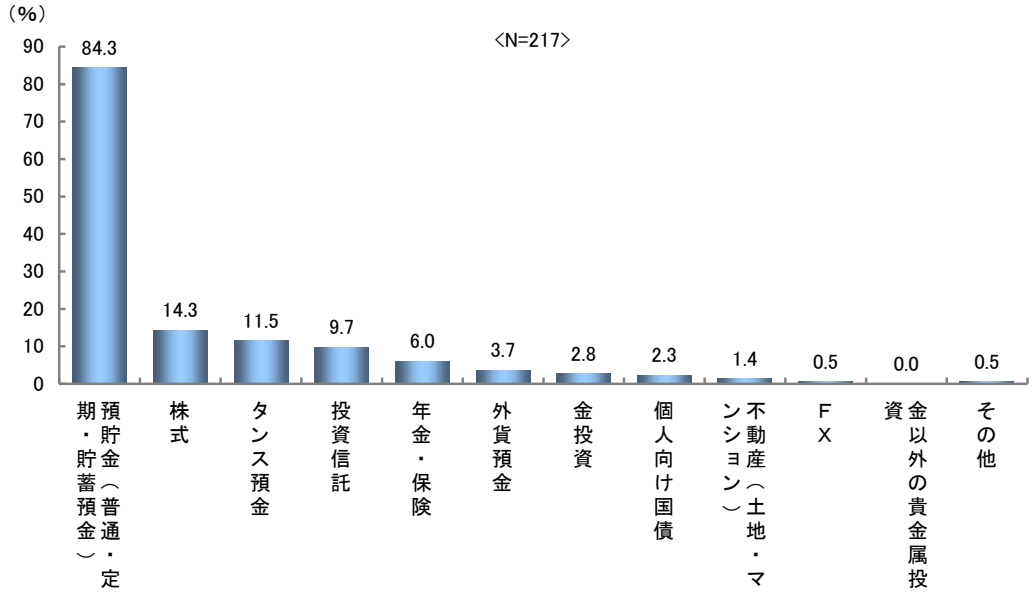
・妻の年代別にみると、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっている点に変わりはありませんが、《20 代》では 82.5%と比較的少なくなっています。

・夫に内緒の資産額別にみると、やはりいずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、内緒の資産が多い人ほど「株式」「投資信託」「年金・保険」「外貨預金」などが多く、さまざまな方法で運用している割合が高くなっています。一方、「タンス預金」は内緒の資産が少ない人ほど高い割合で、《100 万円未満》（33.3%）の人では３割を超えています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べ、あまり大きな動きはありませんが、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（94.4%→89.9%）がやや減り、「タンス預金」（10.7%→16.1%）がやや増えています。

図 23. 今後、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有したいか（回答は２つまで）



妻の年代	20 代 <n=40>	72.5	7.5	12.5	7.5	15.0	10.0	2.5	－	5.0	－	－	－
	30 代 <n=55>	92.7	10.9	12.7	9.1	3.6	1.8	1.8	－	1.8	1.8	－	－
	40 代 <n=56>	87.5	17.9	7.1	10.7	3.6	－	3.6	5.4	－	－	－	－
	50 代 <n=66>	81.8	18.2	13.6	10.6	4.5	4.5	3.0	3.0	－	－	－	1.5
内緒の資産	100万円未満 <n=48>	81.3	6.3	33.3	2.1	4.2	－	2.1	2.1	－	－	－	－
	100～200万円未満 <n=48>	81.3	16.7	4.2	6.3	6.3	4.2	－	－	－	－	－	－
	200～300万円未満 <n=19>	94.7	21.1	5.3	5.3	5.3	－	－	5.3	－	－	－	－
	300～500万円未満 <n=32>	78.1	12.5	12.5	15.6	9.4	6.3	3.1	3.1	－	3.1	－	－
	500～1000万円未満 <n=36>	94.4	22.2	2.8	13.9	2.8	2.8	－	2.8	2.8	－	－	2.8
	1000万円以上 <n=34>	82.4	11.8	2.9	17.6	8.8	8.8	11.8	2.9	5.9	－	－	－

次に、今後は『夫に内緒の資産』をどのような形で保有したいか聞いてみたところ、現在と同様「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（84.3%）が圧倒的に多くなっています。そのほかの項目はいずれも少なく、「株式」（14.3%）、「タンス預金」（11.5%）、「投資信託」（9.7%）などとなっています。

・妻の年代別にみると、「株式」で保有したいという割合は、年代が上がるほど高い割合となっています。

・夫に内緒の資産額別にみると、内緒の資産が多い人ほど「株式」や「投資信託」による保有意向が強くなっています。

・なお、現在の保有形態別にみると、現在「預貯金」で保有している 195 名のうち、「預貯金」という人が９割強（91.3%）みられます。やはり“安心・安全”にへそくりを保有する方法は預貯金が第一と考えている人が多いようです。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べてみると、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（86.8%→84.3%）がわずかに減る一

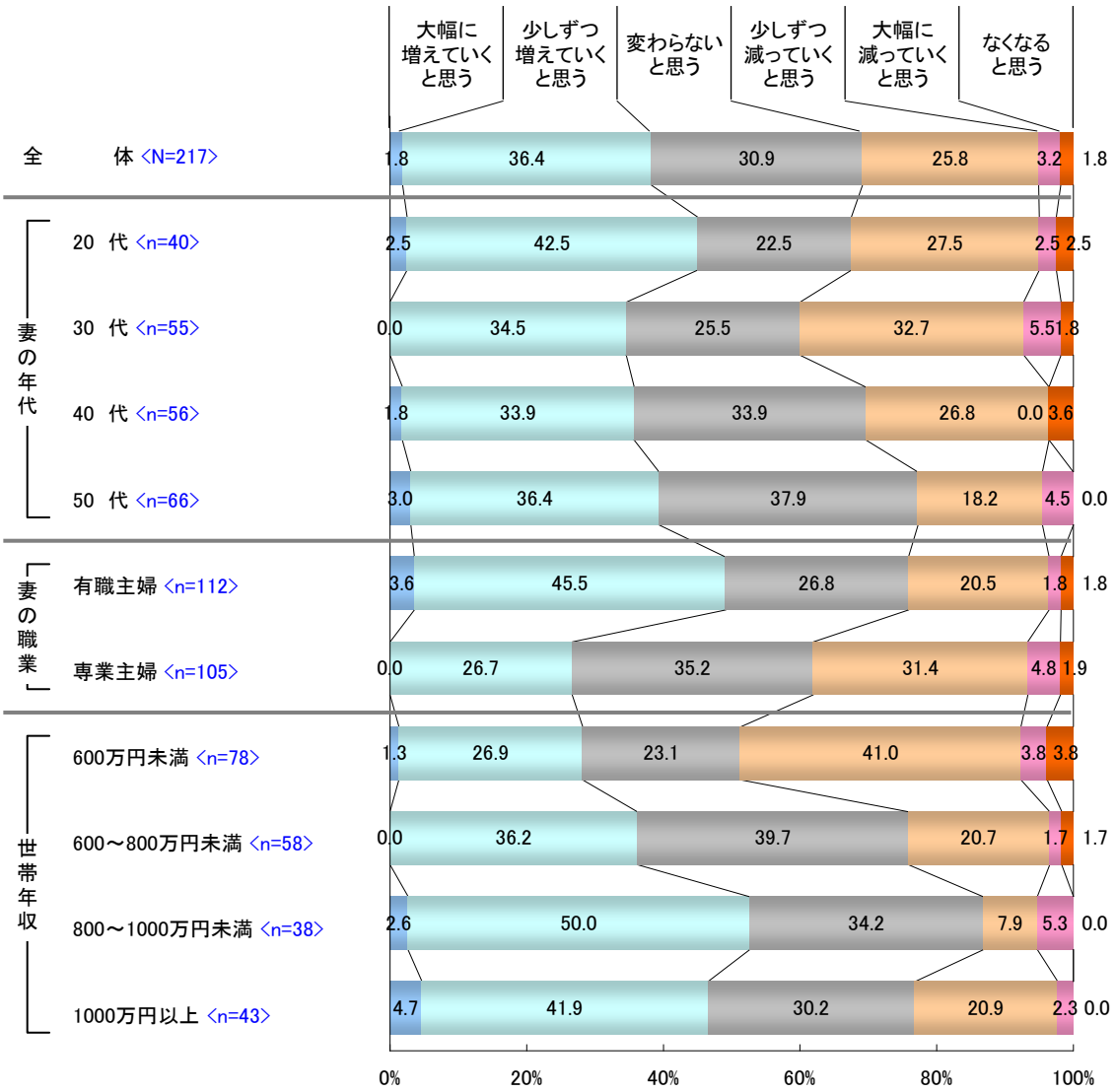
方、「株式」（9.6%→14.3%）、「投資信託」（4.6%→9.7%）などがやや増えており、より多様な形式で保有したいという傾向が出てきています。

7．『夫に内緒の資産』の今後の見通し

“増えていくと思う”(38.2%)という方が“減っていく＋なくなると思う”(30.9%)よりも多く、楽観的な見方の方が優勢。

◆増えていくと思う理由は、「継続して貯めているため」(21 件)とこれまでの経緯や、「働き始めたから・まだ働くつもりだから」(17 件)と自分の稼ぎで増やしていけること、そして「増やしたいという気持ちがあるから」(13 件)、「給与が上がるので」(5 件)など。減っていく＋なくなると思う理由は、「子供の教育費などに回すから」(15 件)、「生活費に充てているため」(13 件)といったさまざまな出費や、「自分が仕事を辞めたから・働いていないから」(10 件)、「収入が減ったので」(8 件)の収入の減少など。

図 24. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している回答者に、今後の資産増減の見通しについて聞いたところ、「大幅に増えていくと思う」(1.8%)、「少しずつ増えていくと思う」(36.4%) を合わせた“増えていくと思う”という人が約４割(38.2%) を占め、「少しずつ減っていくと思う」(25.8%)、「大幅に減っていくと思う」(3.2%)、「なくなると思う」(1.8%) を合わせた“減っていく＋なくなると思う”(30.9%) よりも多くなっています。先にみたように、家計は“厳しくなっていく”という方が多かったのですが、『夫に内緒の資産』はそれとは別のようです。

・妻の年代別にみると、《20 代》で「変わらないと思う」（22.5%）が他の年代に比べて少なめ、“増えていくと思う”（45.0%）が多めとなっています。

・妻の職業別にみると、《専業主婦》では“増えていくと思う”（26.7%）よりも“減っていく＋なくなると思う”（38.1%）の方が多数を占めていますが、《有職主婦》では反対に“増えていくと思う”（49.1%）という方が“減っていく＋なくなると思う”（24.1%）を大きく上回っており、《有職主婦》の方が『夫に内緒の資産』の先行きは明るいと感じています。

・世帯年収別にみると、“増えていくと思う”割合は年収が多いほど高く、《600 万円未満》（28.2%）では３割に届きませんが、《600～800 万円未満》（36.2%）では３割台、《800～1000 万円未満》（52.6%）、《1000 万円以上》（46.5%）では５割前後となっています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べてみると、“増えていくと思う”（40.6%→38.2%）や「変わらないと思う」（32.5%→30.9%）がやや減り、“減っていく＋なくなると思う”（26.9%→30.9%）がやや増えており、見通しは悲観的になってきています。

表 8.『夫に内緒の資産』が“増えていくと思う”理由（自由回答：件）

順位	増えていくと思う理由	件数
1	継続して貯めているため	21
2	働き始めたから・まだ働くつもりだから	17
3	増やしたいという気持ちがあるから	13
4	給与が上がるので	5
5	株・投資など運用しているから	4
	ローンが終わるから・支出が減るから	4
7	生活費などを節約しているから	3
	貯金の利息分があるから	3
	その他	10

『夫に内緒の資産』の見通しについて、その理由を自由回答で聞いてみました。

まず、“増えていくと思う”理由は、「継続して貯めているため」（21 件）とこれまでの経緯や、「働き始めたから・まだ働くつもりだから」（17 件）と自分の稼ぎで増やしていけること、そして「増やしたいという気持ちがあるから」（13 件）、「給与が上がるので」（5 件）などがあげられています。

表 9.『夫に内緒の資産』が“減っていく＋なくなると思う”理由（自由回答：件）

順位	減っていくと思う理由	件数
1	子供の教育費などに回すから	15
2	生活費に充てているため	13
3	自分が仕事を辞めたから・働いていないから	10
4	収入が減ったので	8
5	自分の小遣いとして少しずつ使っているから	7
	使う機会が増えているから	7
	その他	12

次いで、“減っていく＋なくなると思う”理由をみると、「子供の教育費などに回すから」（15 件）、「生活費に充てているため」（13 件）といったさまざまな出費や、「自分が仕事を辞めたから・働いていないから」（10 件）、「収入が減ったので」（8 件）と収入が減少することなどがあげられています。

表 10. 『夫に内緒の資産』が“変わらないと思う”理由（自由回答：件）

順位	変わらないと思う理由	件数
1	収入の増減の予定がないため	21
2	増やす気がないから・手を付けないつもりだから	14
3	増やす余裕がないから	8
4	特に使う予定がないから	5
5	貯めた分だけ使っているから	4
	その他	7

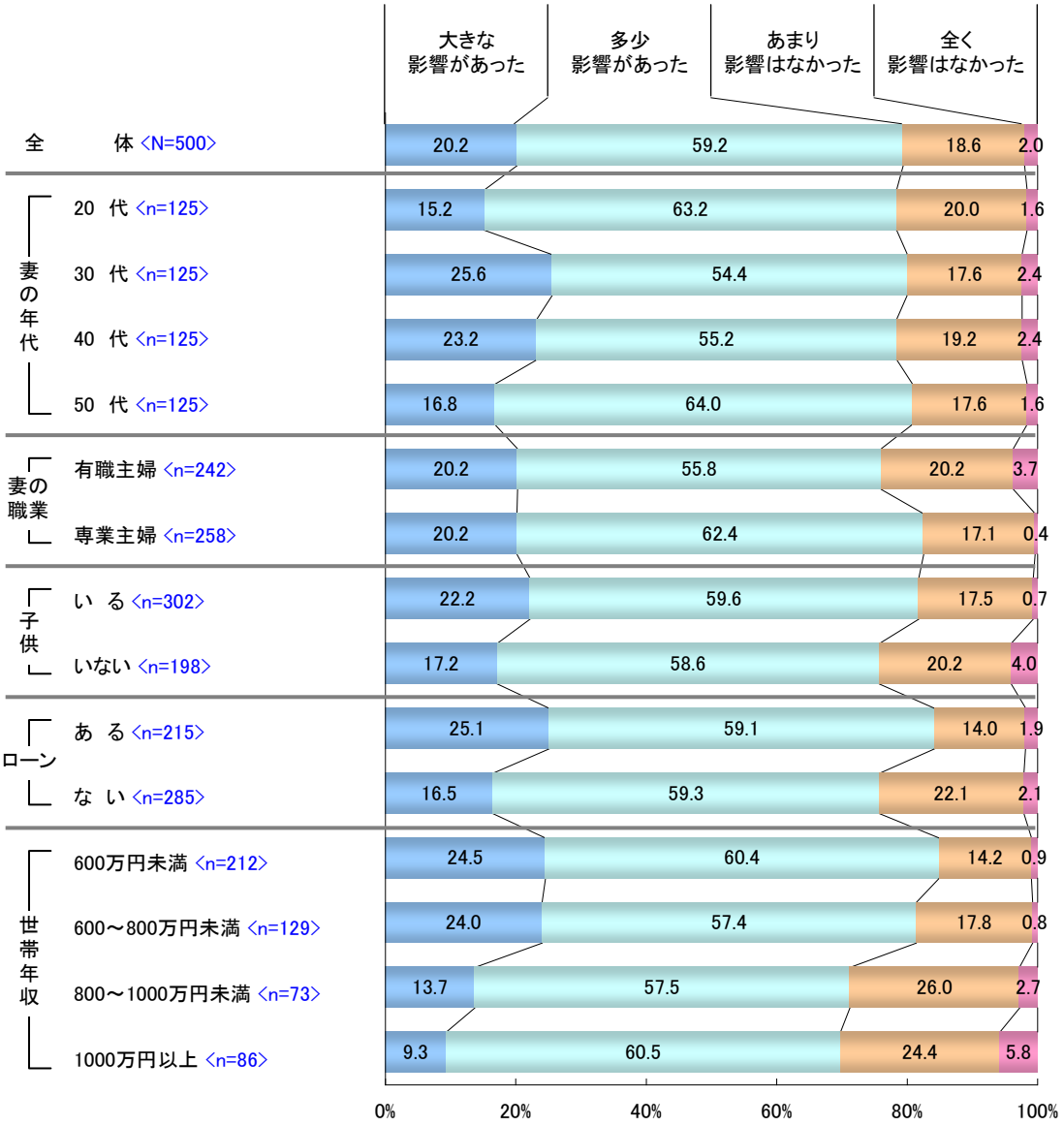
“変わらないと思う”理由は、「収入の増減の予定がないため」（21 件）、「増やす気がないから・手を付けないつもりだから」（14 件）、「増やす余裕がないから」（8 件）といった結果になっています。

Ⅳ 2014 年４月の消費税増税（８％）の影響

１． ４月の消費税増税は家計や消費生活にどの程度影響があったか

ほぼ8割（79.4%）が“影響があった”としており、消費税増税が家計や消費生活に与えた影響は極めて大きく、特に世帯年収の低い世帯の主婦ほど大きな影響を受けた。

図 25. ４月の消費税増税は家計や消費生活にどの程度影響があったか



2014 年の４月に、消費税が５％から８％に引き上げられましたが、家計や消費生活にはどの程度影響があったでしょうか。

「大きな影響があった」が約２割（20.2%）、「多少影響があった」が約６割（59.2%）で、合わせて“影響があった”（79.4%）という回答がほぼ８割を占めています。消費税増税が家計や消費生活に与えた影響は極めて大きかったことがうかがえます。

・妻の年代別にみると、“影響があった（大きな＋多少）”の割合はいずれの年代でも８割程度で、大きな差はありません。

・妻の職業別にみると、“影響があった”とする割合は、《有職主婦》（76.0%）よりも《専業主婦》（82.6%）の方がやや高めです。

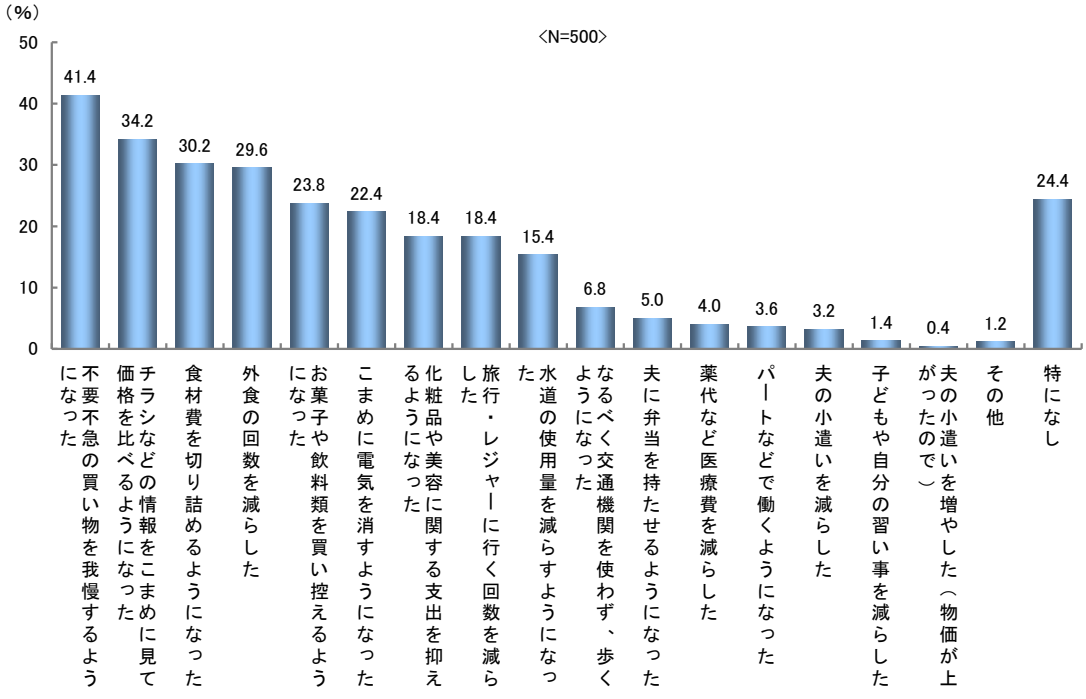
・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別では、子供が《いない》（75.8%）人よりも《いる》（81.8%）人の方が、住宅ローンの有無別では、ローンが《ない》（75.8%）人よりも《ある》（84.2%）人の方が、“影響があった”とする割合はそれぞれ高めです。

・世帯年収別にみると、年収の低い世帯の主婦ほど“影響があった”の割合は高く、《1000 万円以上》（69.8%）の人に対し、《600 万円未満》（84.9%）の人では 15 ポイントも高くなっています。

２．消費税増税の後、家庭の消費行動にはどんな変化があったか

「不要不急の買い物を我慢するようになった」（41.4%）、「チラシなどの情報を見て価格を比べるようになった」（34.2%）、「食材費を切り詰めるようになった」（30.2%）、「外食の回数を減らした」（29.6%）、「お菓子や飲料類を買い控えるようになった」（23.8%）、「こまめに電気を消すようになった」（22.4%）など、支出を減らすためのさまざまなことを行うようになっており、４人に３人（75.6%）は“何らかの変化があった”。

図 26. 消費税増税の後、家庭の消費行動にはどんな変化があったか（複数回答）



		不要不急の買い物を我慢するようになった	チラシなどの情報をこまめに見て価格を比べるようになった	食材費を切り詰めるようになった	外食の回数を減らした	お菓子や飲料類を買い控えるようになった	こまめに電気を消すようになった	化粧品や美容に関する支出を抑えるようになった	旅行・レジャーに行く回数を減らした	水道の使用量を減らすようになった	なるべく交通機関を使わず、歩くようになった	夫に弁当を持たせるようになった	薬代など医療費を減らした	パートなどで働くようになった	夫の小遣いを減らした	子どもや自分の習い事を減らした	夫の小遣いを増やした（物価が上がったので）	その他	特になし
妻の年代	20 代 <n=125>	33.6	43.2	27.2	33.6	28.0	22.4	22.4	17.6	12.8	9.6	12.0	1.6	2.4	6.4	1.6	－	0.8	19.2
	30 代 <n=125>	42.4	30.4	32.0	33.6	22.4	22.4	18.4	21.6	16.8	8.0	4.8	1.6	4.0	3.2	0.8	1.6	1.6	27.2
	40 代 <n=125>	45.6	33.6	24.0	27.2	21.6	23.2	20.0	20.0	13.6	5.6	2.4	5.6	6.4	1.6	2.4	－	1.6	23.2
	50 代 <n=125>	44.0	29.6	37.6	24.0	23.2	21.6	12.8	14.4	18.4	4.0	0.8	7.2	1.6	1.6	0.8	－	0.8	28.0
世帯年収	600万円未満 <n=212>	45.8	37.3	36.3	32.5	30.2	27.4	25.9	24.1	17.0	8.5	8.0	6.6	6.1	4.2	1.9	0.9	1.4	17.5
	600～800万円未満 <n=129>	39.5	38.0	33.3	34.9	23.3	19.4	20.2	18.6	13.2	4.7	4.7	3.1	1.6	4.7	1.6	－	1.6	24.0
	800～1000万円未満 <n=73>	46.6	30.1	24.7	28.8	19.2	13.7	11.0	11.0	12.3	8.2	－	2.7	1.4	－	1.4	－	－	24.7
	1000万円以上 <n=86>	29.1	24.4	15.1	15.1	12.8	22.1	3.5	10.5	17.4	4.7	2.3	－	2.3	1.2	－	－	1.2	41.9

2014 年４月の消費税増税の後、家庭の消費行動にはどんな変化があったでしょうか。

「不要不急の買い物を我慢するようになった」（41.4%）、「チラシなどの情報を見て価格を比べるようになった」（34.2%）、「食材費を切り詰めるようになった」（30.2%）、「外食の回数を減らした」（29.6%）、「お菓子や飲料類を買い控えるようになった」（23.8%）、「こまめに電気を消すようになった」（22.4%）、「化粧品や美容に関する支出を抑えるようになった」（18.4%）、「旅行・レジャーに行く回数を減らした」（18.4%）、「水道の使用量を減らすようになった」（15.4%）など、支出を減らすためのさまざまなことを行うようになっており、消費税増税が家庭の消費行動に大きな影響を与えたことが分かります。消費行動の変化は「特になし」（24.4%）という人は少数で、“何らかの変化があった”という人が４人に３人（75.6%）の割合に達しています。

・妻の年代別ではあまり大きな差はありません。

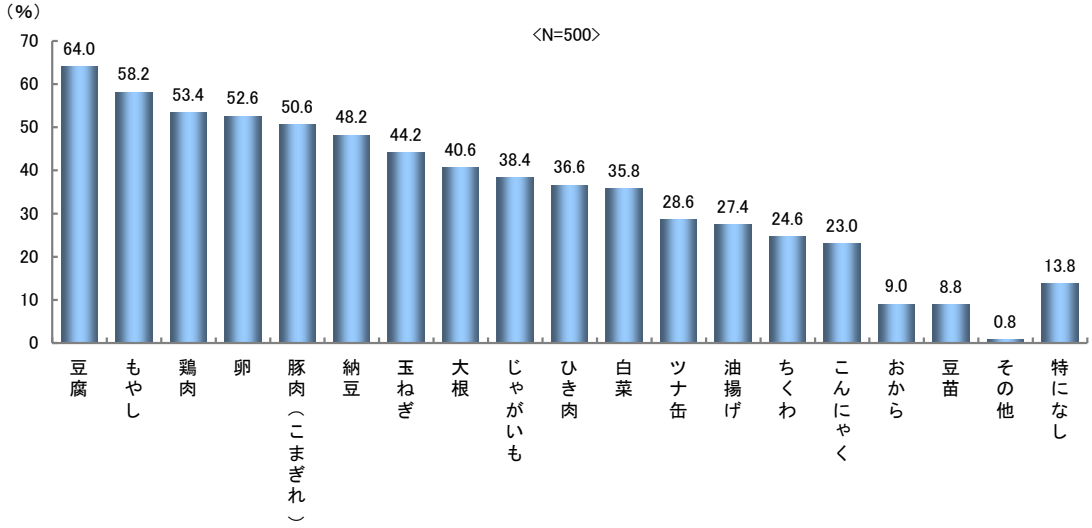
・世帯年収別では、ほとんどの項目で年収が低い世帯ほど高い割合となっており、やはり年収が低い世帯ほどいろいろな対策を取らなければならない傾向にあるようです。

３．日頃よく利用している「節約食材」

「節約食材」は、「豆腐」（64.0%）が最も多く、以下「もやし」（58.2%）、「鶏肉」（53.4%）、「卵」（52.6%）、「豚肉（こまぎれ）」（50.6%）、「納豆」（48.2%）、「玉ねぎ」（44.2%）、「大根」（40.6%）などさまざま。

そのうち、消費税増税後に値上がりを実感したものは、「豚肉（こまぎれ）」（31.0%）、「卵」（27.0%）、「ツナ缶」（21.6%）、「鶏肉」（19.6%）、「ひき肉」（17.4%）など、総じてあまり高い割合ではないが、過半数の人が何らかの“値上がりを実感したものがある”（58.2%）。

図 27. 日頃よく利用している「節約食材」（複数回答）



		豆腐	もやし	鶏肉	卵	豚肉（こまぎれ）	納豆	玉ねぎ	大根	じゃがいも	ひき肉	白菜	ツナ缶	油揚げ	ちくわ	こんにゃく	おから	豆苗	その他	特になし
妻の年代	20 代 <n=125>	58.4	51.2	55.2	55.2	44.0	49.6	44.8	34.4	36.0	37.6	32.0	21.6	23.2	16.0	13.6	6.4	8.0	0.8	18.4
	30 代 <n=125>	66.4	56.0	52.8	47.2	44.8	51.2	44.0	42.4	38.4	32.0	37.6	29.6	26.4	21.6	22.4	10.4	9.6	0.8	11.2
	40 代 <n=125>	68.0	68.0	56.8	52.0	59.2	47.2	44.8	44.0	36.0	36.8	34.4	30.4	30.4	30.4	29.6	10.4	7.2	0.8	10.4
	50 代 <n=125>	63.2	57.6	48.8	56.0	54.4	44.8	43.2	41.6	43.2	40.0	39.2	32.8	29.6	30.4	26.4	8.8	10.4	0.8	15.2
世帯年収	600万円未満 <n=212>	70.8	62.7	56.1	57.5	52.4	52.8	50.9	46.2	40.6	42.0	40.1	29.7	27.4	22.2	23.1	10.8	7.5	0.5	8.5
	600～800万円未満 <n=129>	61.2	60.5	54.3	51.2	55.0	47.3	45.7	41.1	42.6	32.6	37.2	27.1	31.0	25.6	27.9	6.2	8.5	－	13.2
	800～1000万円未満 <n=73>	63.0	57.5	58.9	50.7	47.9	45.2	32.9	32.9	32.9	32.9	28.8	35.6	24.7	34.2	24.7	12.3	9.6	4.1	16.4
	1000万円以上 <n=86>	52.3	44.2	40.7	44.2	41.9	40.7	34.9	32.6	31.4	32.6	29.1	22.1	24.4	20.9	14.0	5.8	11.6	－	25.6

経済状況が厳しい昨今、「節約食材」を使うことは主婦にとって必須と言えるでしょう。では、日頃よく利用している「節約食材」は何でしょうか。

「豆腐」（64.0%）が６割台で最も多く、以下「もやし」（58.2%）、「鶏肉」（53.4%）、「卵」（52.6%）、「豚肉（こまぎれ）」（50.6%）までの５品目を半数以上の主婦があげています。以下、「納豆」（48.2%）、「玉ねぎ」（44.2%）、「大根」（40.6%）、「じゃがいも」（38.4%）、「ひき肉」（36.6%）、「白菜」（35.8%）など、さまざまな節約食材が使われています。

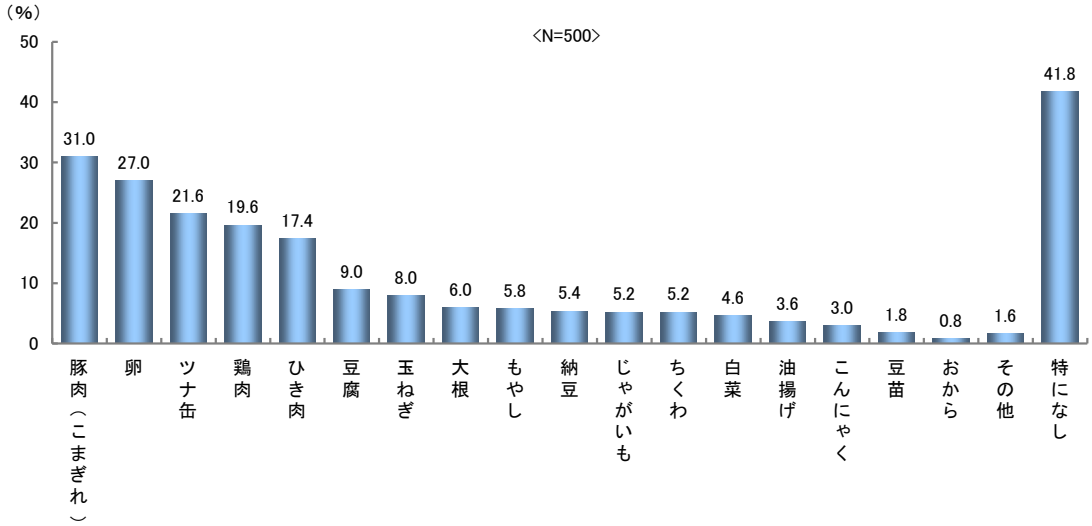
・世帯年収別では、年収が低い世帯ほど高い割合の項目が多く、例えば「豆腐」は《1000 万円以上》（52.3%）の世帯では半数程度なのに対し、《600 万円未満》（70.8%）の世帯では７割を超え、20 ポイント近い差が生じています。一方、「特になし」という割合は《600 万円未満》（8.5%）では１割に満たないのに対し、《1000 万円以上》の世帯では４人に１人（25.6%）の割合に達しています。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「卵」（40.0%→52.6%）、「豚肉（こまぎれ）」（38.0%→50.6%）、「納豆」（34.2%

→48.2%）など、昨冬よりも大きく増えている項目がほとんどとなっており、特に 10 ポイント以上伸びた項目が８項目に及んでいます。消費税増税の影響なのか、「節約食材」に頼る傾向は昨冬よりもかなり強くなっています。

図 28. 消費税増税後に値上がりを実感したもの（複数回答）



		豚肉（こまぎれ）	卵	ツナ缶	鶏肉	ひき肉	豆腐	玉ねぎ	大根	もやし	納豆	じゃがいも	ちくわ	白菜	油揚げ	こんにゃく	豆苗	おから	その他	特になし
妻の年代	20 代 <n=125>	32.0	25.6	12.8	20.8	17.6	7.2	8.0	6.4	6.4	7.2	4.0	2.4	3.2	0.8	－	0.8	－	0.8	44.8
	30 代 <n=125>	27.2	30.4	25.6	18.4	16.8	10.4	8.8	6.4	4.8	4.8	7.2	6.4	6.4	5.6	6.4	2.4	1.6	3.2	41.6
	40 代 <n=125>	40.8	26.4	26.4	25.6	21.6	8.8	8.8	6.4	8.8	4.0	5.6	6.4	3.2	2.4	3.2	2.4	0.8	0.8	36.0
	50 代 <n=125>	24.0	25.6	21.6	13.6	13.6	9.6	6.4	4.8	3.2	5.6	4.0	5.6	5.6	5.6	2.4	1.6	0.8	1.6	44.8
世帯年収	600万円未満 <n=212>	38.2	33.5	26.4	23.1	24.5	10.8	11.8	9.0	7.5	6.6	6.6	4.7	7.5	4.7	3.8	1.9	0.9	0.9	35.4
	600～800万円未満 <n=129>	31.8	27.9	20.9	19.4	14.0	5.4	3.1	3.9	2.3	3.1	3.9	4.7	1.6	3.1	0.8	－	－	2.3	38.8
	800～1000万円未満 <n=73>	27.4	26.0	17.8	11.0	12.3	5.5	4.1	1.4	4.1	4.1	2.7	6.8	1.4	1.4	4.1	2.7	1.4	2.7	46.6
	1000万円以上 <n=86>	15.1	10.5	14.0	18.6	9.3	12.8	9.3	5.8	8.1	7.0	5.8	5.8	4.7	3.5	3.5	3.5	1.2	1.2	58.1

「節約食材」のうち、**消費税増税後に値上がりを実感したもの**は、最も多い「豚肉（こまぎれ）」（31.0%）でも３割程度で、以下「卵」（27.0%）、「ツナ缶」（21.6%）、「鶏肉」（19.6%）、「ひき肉」（17.4%）などの順となっています。総じてあまり高い割合ではありませんが、“値上がりを実感したものがある”（58.2%）という人の割合が過半数を占めています。家計が苦しい時に頼りになる「節約食材」だけに、その値上がりは家計にとって厳しいものと思われます。

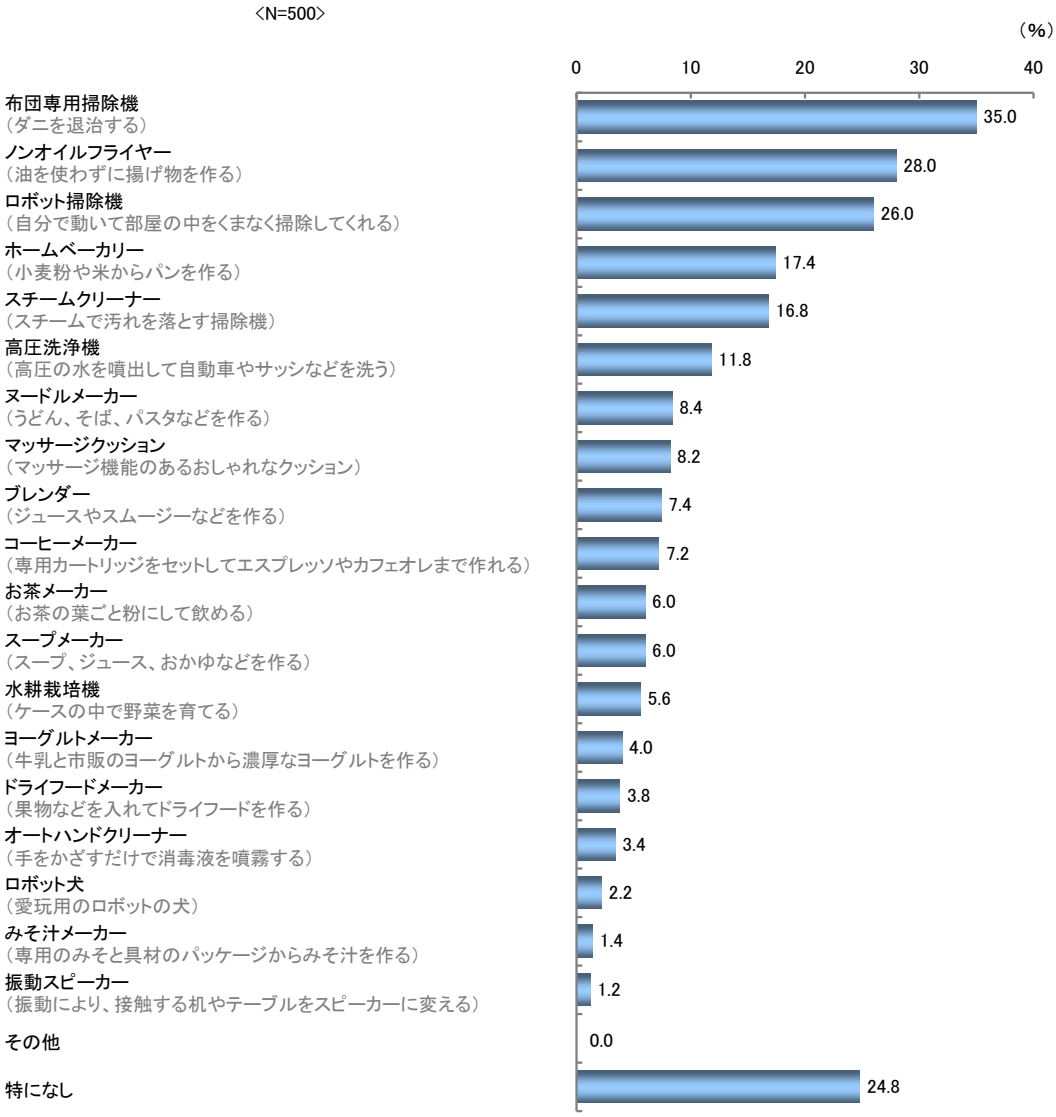
・妻の年代別にみると、「豚肉（こまぎれ）」をあげる割合は、《40 代》（40.8%）で高くなっているといった若干の差はありますが、総じて大きな年代差はみられません。

・世帯年収別では、年収が低い人ほど高い割合の項目がほとんどで、一方「特になし」の割合は逆に年収が上がるほど高くなっています。年収が低い人ほど、これらの「節約食材」の価格に敏感であることがうかがえます。

４．「購入してみたい」と思う生活便利家電

「布団専用掃除機（ダニを退治する）」（35.0%）が最も多く、以下「ノンオイルフライヤー（油を使わずに揚げ物を作る）」（28.0%）、「ロボット掃除機（自分で動いて部屋の中をくまなく掃除してくれる）」（26.0%）、「ホームベーカリー（小麦粉や米からパンを作る）」（17.4%）、「スチームクリーナー（スチームで汚れを落とす掃除機）」（16.8%）などの順。

図 29.「購入してみたい」と思う生活便利家電（複数回答）



	妻の年代			
	20代 n=125	30代 n=125	40代 n=125	50代 n=125
布団専用掃除機（ダニを退治する）	40.0	40.0	33.6	26.4
ノンオイルフライヤー（油を使わずに揚げ物を作る）	28.0	31.2	24.8	28.0
ロボット掃除機（自分で動いて部屋の中をくまなく掃除してくれる）	27.2	28.0	24.8	24.0
ホームベーカリー（小麦粉や米からパンを作る）	23.2	20.0	12.0	14.4
スチームクリーナー（スチームで汚れを落とす掃除機）	12.0	23.2	14.4	17.6
高圧洗浄機（高圧の水を噴出して自動車やサッシなどを洗う）	12.0	12.8	9.6	12.8
ヌードルメーカー（うどん、そば、パスタなどを作る）	9.6	11.2	4.0	8.8
マッサージクッション（マッサージ機能のあるおしゃれなクッション）	8.8	7.2	11.2	5.6
ブレンダー（ジュースやスムージーなどを作る）	8.8	9.6	8.0	3.2
コーヒーメーカー（専用カートリッジをセットしてエスプレッソやカフェオレまで作れる）	11.2	10.4	3.2	4.0
お茶メーカー（お茶の葉ごと粉にして飲める）	4.8	10.4	3.2	5.6
スープメーカー（スープ、ジュース、おかゆなどを作る）	7.2	8.8	2.4	5.6
水耕栽培機（ケースの中で野菜を育てる）	4.0	5.6	4.0	8.8
ヨーグルトメーカー（牛乳と市販のヨーグルトから濃厚なヨーグルトを作る）	5.6	5.6	1.6	3.2
ドライフードメーカー（果物などを入れてドライフードを作る）	4.8	5.6	3.2	1.6
オートハンドクリーナー（手をかざすだけで消毒液を噴霧する）	3.2	6.4	1.6	2.4
ロボット犬（愛玩用のロボットの犬）	1.6	2.4	0.8	4.0
みそ汁メーカー（専用のみそと具材のパッケージからみそ汁を作る）	2.4	2.4	－	0.8
振動スピーカー（振動により、接触する机やテーブルをスピーカーに変える）	1.6	0.8	0.8	1.6
その他	－	－	－	－
特になし	20.8	24.0	28.8	25.6

最近、さまざまな工夫をこらした生活家電が増えてきています。そういったものの中で、「購入してみたい」と思うものをあげてもらったところ、「布団専用掃除機（ダニを退治する）」（35.0%）が最も多く、以下「ノンオイルフライヤー（油を使わずに揚げ物を作る）」（28.0%）、「ロボット掃除機（自分で動いて部屋の中をくまなく掃除してくれる）」（26.0%）、「ホームベーカリー（小麦粉や米からパンを作る）」（17.4%）、「スチームクリーナー（スチームで汚れを落とす掃除機）」（16.8%）、「高圧洗浄機（高圧の水を噴出して自動車やサッシなどを洗う）」（11.8%）などの順となっています。

・妻の年代別にみると、総じてあまり大きな傾向の差はありませんが、若い人ほど高い割合の項目がやや多く、こういった新しい家電製品に対する関心が強いようです。